

市民活動団体の 現状把握と 必要なサポート 検討のための アンケート調査 報告書

2010年3月／市民活動★パワーアップ研究会

[市民企画提案事業：くらしきパートナーシップ推進ひろば・倉敷市(市民活動推進課)]

報告書作成：特定非営利活動法人 岡山 NPO センター

目次

アンケート調査について.....	4
調査概要	4
調査項目	5
調査結果の概要.....	6
■ 結果概要 1：団体の財政規模や組織形態による傾向.....	6
■ 結果概要 2：困っている事と提供して欲しい支援（サポート）	7
■ 各設問の回答	8
I. 団体の概略について（全ての団体を対象）	8
I-① 問1 団体の概略について.....	8
I-② 公益的な活動について	11
II. 団体の活動状況、場所、人材、資金などについて.....	15
II-① 問4 団体の活動状況・内容について（団体基本情報）	15
II-② 場所・施設・機材について	19
II-③ 人材について.....	22
II-④ 資金について.....	24
II-⑤ 情報開示（公開と発信）について.....	26
II-⑥ 交流・連携について	31
II-⑦ 今後身につけたいことについて.....	33
II-⑧ 市民活動促進のための行政の施策について	35
おわりに	36
市民活動★パワーアップ研究会 参加メンバー	37
市民活動★パワーアップ研究会 概略	38
その他、記述欄の回答	39

アンケート調査について

調査概要

1. 調査の目的

市民活動団体の現状把握と必要な支援策の検討。

この調査は、倉敷市内で活動する市民活動団体の現状を把握し、その適切な発展のために必要な支援策は何かを考え、実施することを目的に実施されました。

2. 調査方法

市民活動団体へのアンケート調査

倉敷市内の特定非営利活動法人(以下、NPO法人)や市民活動センターなどに登録する市民活動団体に対して、郵送などの方法により、団体の概要や活動状況、内容について聞きました。

3. 調査期間

前期:平成21年11月27日(金)~12月21日(月)

後期:平成22年1月12日(火)~1月25日(月)

4. 調査の対象

倉敷市内で活動している計440の市民活動団体。

前期(計283団体):

- ・倉敷市内に連絡先を持つ特定非営利活動法人:84団体
- ・倉敷市市民活動センター登録団体:192団体
- ・倉敷市男女共同参画センター登録団体:7団体

後期(計157団体):

- ・倉敷ボランティアセンターで把握する団体:157団体

5. 回収率

33% (有効回答数145/440)

6. 調査実施者

くらしきパートナーシップ推進ひろば・倉敷市(市民活動推進課)

この調査は、上記の両者が実施主体となり、「市民活動★パワーアップ研究会(倉敷市市民企画提案事業)」の一環として実施されました。

調査項目

I. 団体の概略・公益的な活動について（全ての団体を対象）

「公益的な活動」への取り組み有無に関わらず、調査対象全てに対して基本的な事項を聞きました。

I-① 団体の概略について

団体の種類、団体の名称、代表者氏名、団体の連絡先など、
あなたの団体が得意なことや提供できることアピールポイントなど

I-② 公益的な活動について

公益的な活動への取り組み(関心度)、公益的な活動をはじめた理由、
公益的な活動をしていない理由、今後の公益的な活動への取り組み意向

※以下は問「I-② 公益的な活動について」に、「取り組んでいる」と回答した団体のみを対象としました。

II. 団体の活動状況、場所、人材、資金などについて

II-① 団体の活動状況・内容について(団体基本情報)

活動の目的や団体の使命、現在行っている主な活動・事業の概略、現在活動を行っている主な地域、
会員制度と会員数、年間支出額、職員数 スタッフ数、活動開始時期と法人格取得時期、活動分野

II-② 場所・施設・機材について

活動や打合せを行う場所、活動や打合せを行う主な時間帯、
場所・施設・機材で困っていること、場所・施設・機材で欲しいもの

II-③ 人材について

団体で不足している人材、欲しい人材支援のしくみ

II-④ 資金について

資金面で困っていること、望む資金支援のしくみ

II-⑤ 情報開示(公開と発信)について

情報公開しているもの、情報発信に活用しているもの、もっと手に入れたい情報、望む情報支援のしくみ

II-⑥ 交流・連携について

交流や情報交換または事業・活動で連携したい相手とその内容、交流・連携のために必要だと思うこと

II-⑦ 今後身につけたいことについて

必ず身につけたいこと、身につけるために提供して欲しい方法

II-⑧ 市民活動促進のための行政の施策について

行政に実施して欲しい施策、市民活動の適切な発展に重要だと思うこと

以上、全21問。

調査結果の概要

■ 結果概要 1: 団体の財政規模や組織形態による傾向

○ 「財政規模の大きな開き」と「法人組織が少ない」傾向

今回の調査対象団体は、その支出規模が最大「1億円～5億円未満」から1万円以下、「0円」という団体も多く、事業規模や組織の形態なども大きな開きがあった。法人格を持った組織は少なく、「任意団体」が75%を占めた。任意団体の多くは支出総額50万円以下の小さな団体だが、一部には数100万、数1,000万円規模の任意団体も見受けられた。

これは調査対象が市内の公共施設への登録団体と特定非営利活動法人が主となった事が原因だろう。登録していない社会福祉法人や社団法人、財団法人などの公益法人や、CSRや地域貢献に取り組む企業・事業所については調査対象から漏れており、今後さらなる調査が必要だ。

参考までに、人口に対する特定非営利活動法人数で比較すると岡山市が0.03%であるのに対して倉敷市は0.02%となっている。

○ 「公益的な活動への関心・行動」は高いが、「今後の意欲」はやや低い傾向

「公益的な活動に関心を持っている団体」は135団体(93.8%)、「実際に活動に取り組む団体」は118団体(81.9%)となった。一方で、「今後公益的な活動を増やしていきたい団体」は89団体(62.8%)であり、関心・行動の高さよりもやや低い傾向となった。現在取り組んでいる活動で満足し、事業・組織の拡大を考えていない団体が一定数あると考えられる。

一方、年間支出額が50万円を越える団体では、8割以上の団体が「今後公益的な活動を増やしていきたい」と答えていた。

○ 年間支出額50万円以上300万円未満の団体が「困っている」傾向

今回の調査で尋ねている事は「活動を進める上で困っている事」と「活動で成果を上げるために必要なサポート」についてⅡ-①【場所・施設・機材】、Ⅱ-③【人材】、Ⅱ-④【資金】、Ⅱ-⑤【情報開示】Ⅱ-⑥【交流・連携】、Ⅱ-⑦【今後身につけたい事】、Ⅱ-⑧【行政の施策】について尋ねた。

年間支出額が50万円未満の団体では困っている事、必要なサポート共に「特にない」という回答が多い傾向が見られた。これは市内の公共施設によるサポートが一定の効果を上げている結果だと思われる。

年間支出額が50万円以上300万円未満の団体では、困っている事が増える傾向があった。一方で、年間支出額が300万円以上の団体では困っている事がやや減っている傾向があり、活動が本格化し組織が成長していく過程で様々な困難を抱えている現状と、一定の事業・組織の成長が終わり安定した現状があることが推察できる。

■ 結果概要2: 困っている事と提供して欲しい支援(サポート)

○ 最も困っている事は【人材】、提供して欲しいのは【講座や研修会】

困っている事と提供して欲しい支援(サポート)について、30以上の回答があった物をまとめると以下の表となった。最も困っている事は【人材】に関する事柄であり、ボランティア人材の不足(40)、中核を担うスタッフ人材の不足(40)、人材の募集や育成方法(48)となった。また提供して欲しい支援(サポート)については「講座や研修会(64)」が突出して高く、次いで会員獲得の場や機会の提供(46)、市民活動のための基金の設置(46)となった。

	困っている事	提供して欲しい支援(サポート)
【人材】	ボランティア人材:40 中核を担うスタッフ人材:40、	会員獲得の場や機会の提供:46
【資金】	運営の資金が不足:40	市民活動のための基金の設置:46
【情報】	助成金・補助金の募集情報:38 倉敷市による支援の情報:38	活動・事業のチラシを公共施設に置かせてもらう広報・広告支援:39 活動・事業の総合的な情報発信ツール:30
【交流や情報交換】 【事業・活動で連携したい相手】	同分野の市内の団体:32	市民と出会う場や機会:40 行政との意見交換会:38
【今後身につけたいこと】	人材の募集や育成:48 基礎知識:36 資金の調達や計画:33 技能の向上やスキルアップ:30	講座や研修会:64
【行政に実施して欲しい施策】		情報の提供や共有:42

○ 行政への希望は「情報提供」「意見交換」、「協働事業」の少なさが課題

支援施設で必要な設備や支援事業、行政施策などに対しても、要望はないか、または地域内の活動団体同士の交流や情報提供を希望する回答が多かった。また、資金や設備の提供希望が少ない一方で、行政からの情報提供や行政組織との意見交換に関する希望は多い。反面、協働事業の実施までは希望として少なかったのが課題といえる。

■ 各設問の回答

I. 団体の概略について（全ての団体を対象）

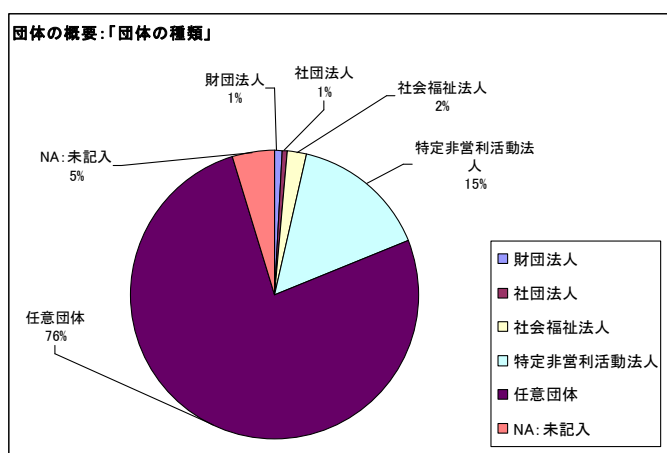
I-① 問 1 団体の概略について

● 団体の種類(単回答、有効回答数144)

今回の回答では「任意団体」が110団体(76.8%)で最も多く、法人組織は27団体(18.8%)、未回答が7団体(4.9%)でした。法人組織では特定非営利活動法人が22団体(15.3%)、社会福祉法人が3団体(2.1%)、財団法人と社団法人がそれぞれ1団体(0.7%)となりました。

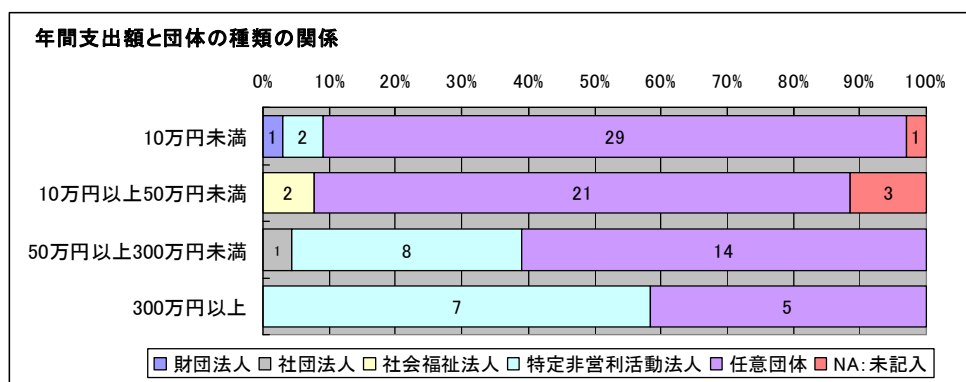
財団法人、社団法人、社会福祉法人の回答が極端に少ない結果となっています。

団体の種類	数	割合
財団法人	1	0.7%
社団法人	1	0.7%
社会福祉法人	3	2.1%
特定非営利活動法人	22	15.3%
任意団体	110	76.4%
NA:未記入	7	4.9%
有効回答者数	144	100.0%



● 団体の種類と年間支出額の関係(単回答、有効回答数144)

年間支出額を大きく4段階に分けて見ると、下のようになります。事業規模が大きくなるにつれて、法人格を持つ団体が増える一方で、どの規模でも任意団体が一定数あることがわかります。

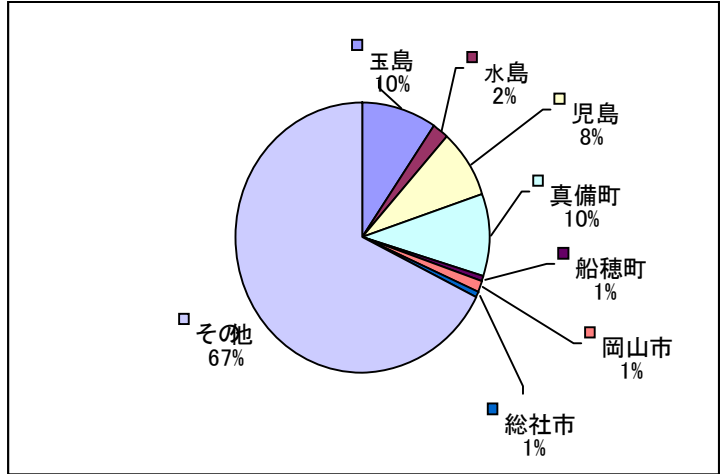


	財団法人	社団法人	社会福祉法人	特定非営利活動法人	任意団体	NA:未記入	小計
10万円未満	1			2	29	1	33
10万円以上50万円未満			2		21	3	26
50万円以上300万円未満		1		8	14		23
300万円以上				7	5		12
小計	1	1	2	17	69	4	94

● 団体の所在地(単回答、有効回答数144)

今回の回答では「その他(旧倉敷市など)」が 98 団体で最も多く、67%を占めました。合併した旧地域では次いで、真備、玉島、児島、水島、船穂の順で多くなっています。

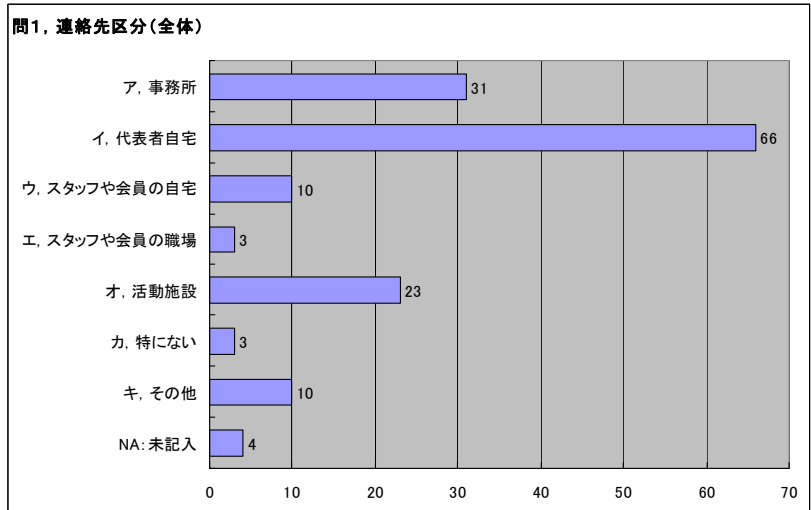
結果から考えれば旧倉敷市内に団体が多いということになりますが、今回の調査対象が登録している市の施設が旧倉敷市にあるため、その影響があったことも考えられます。



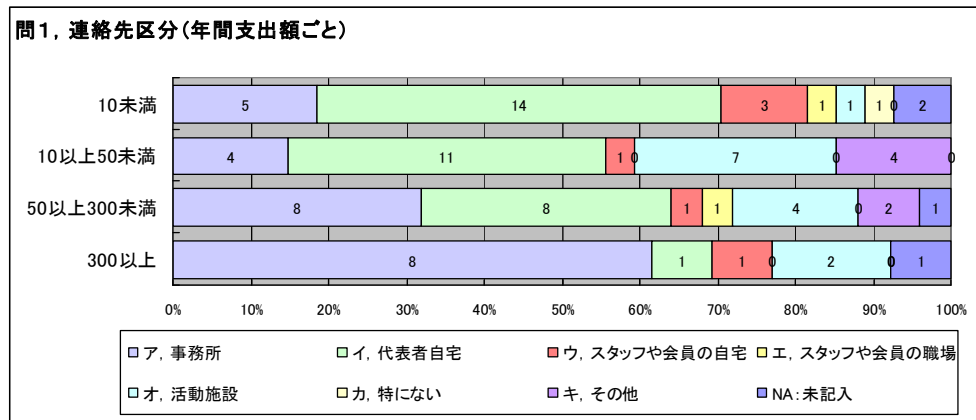
● 団体の連絡先(複数回答、有効回答数92)

連絡先は代表者の自宅が一番多く、事務所を構えているのは全体の21%でした

年間支出額ごとにみると、年間事業規模が 10 万円未満の団体では代表者の自宅が多く、10 万円以上 50 万円未満の団体では代表の自宅に加えて、活動施設を連絡先としている団体が多くなります。

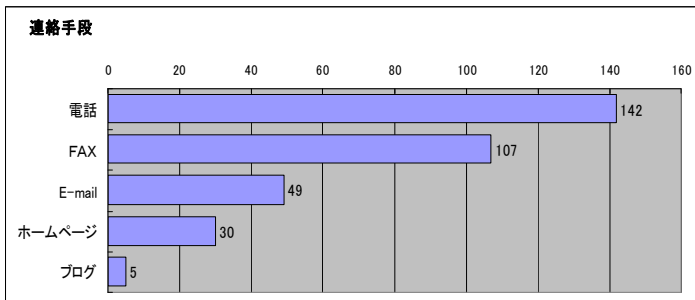


一方、50 万円以上 300 万円未満の団体では代表者の自宅と事務所が同数となり、事務所を構える団体が増えてきたことがわかります。そして、300 万円以上の団体では事務所を構えて連絡先としている団体が半数以上となっています。



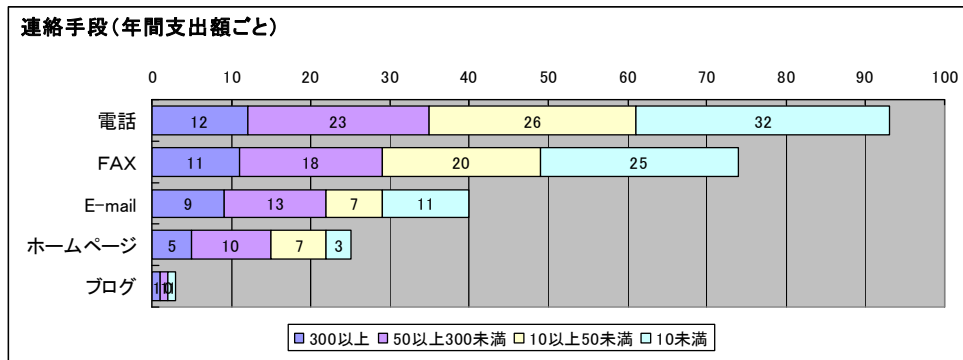
● 連絡手段(単回答、有効回答数94)

電話はほとんど全ての 142 団体(98.6%)、FAX は107団体(74.3%)となり、多くの団体で用意されています。一方でホームページ、ブログ、E-mail のウェブ関係の手段は用意されていない団体の方が多く、E-mail アドレスがあるのは 49 団体(34.0%)、ホームページをもつ団体は 30 団体(20.8%)、ブログをもつ団体はわずかに 5 団体(3.5%)でした。ウェブによる情報発信は資金力に依存せずに情報開示が行えるという点で有効な方法ですが、活用が進んでいない事がわかります。



それぞれの連絡先について年間支出額ごとにみると、どの事業規模でも用意されている連絡手段の割合にはさほど差がないことがわかります。

その中でも、10 万円未満及び 10 万円以上 50 万円未満の団体では、特にウェブ関係の情報手段が少ないことがわかります。一方の 50 万円以上 300 万円未満の団体や 300 万円以上の団体では、E-mail は多くの団体で用意されており、ホームページもほぼ半数の団体で用意されています。



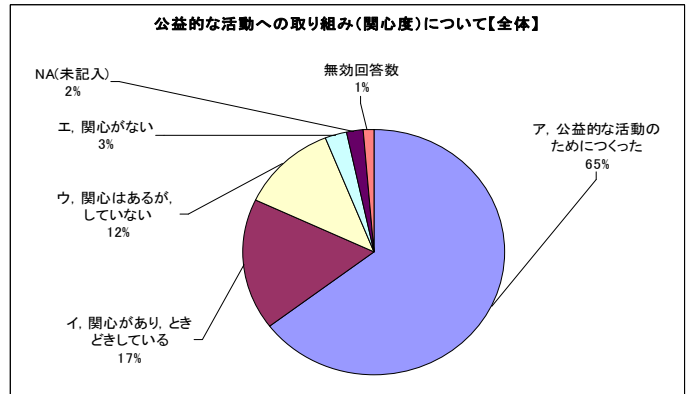
Ⅰ-② 公益的な活動について

● 問2-1 公益的な活動への取り組み(関心度) (単回答、有効回答数142)

「公益的な活動のために作った」が 93 団体 (64.6%)、「関心がありときどきしている」が 25 団体 (17.4%)であり、合わせると 118 団体 (81.9%)が公益活動に取り組んでいます。

また「関心はあるがしていない」17 団体 (11.8%)を合わせると、135 団体 (93.8%)は公益的な活動への取り組みに関心があります。

一方で、「関心がない」4 団体 (2.8%)「未記入」3 団体 (2.1%)を合わせると、7 団体 (4.9%)となり、約 5%近くの団体は公益的な活動に関心あるとは言えません。また、無効回答の 2 団体 (1.4%)は複数の答えを選択していました。

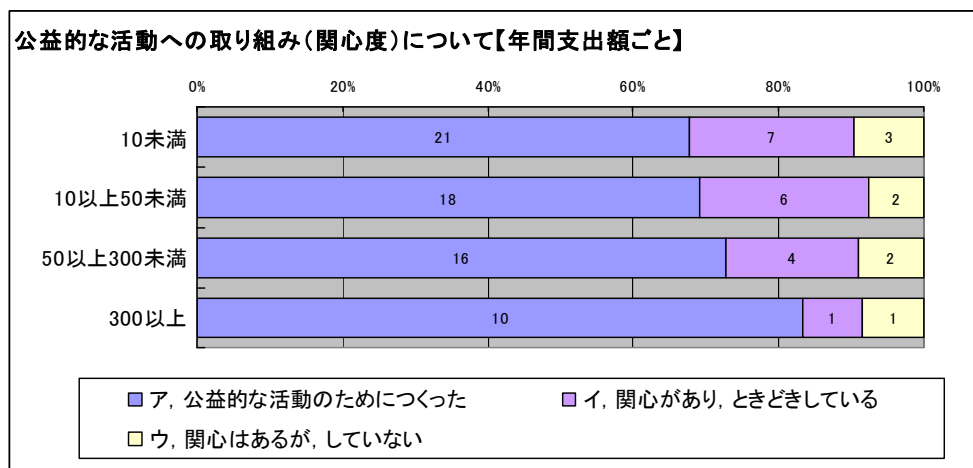


問2-1, あなたの団体の公益的な活動への取り組み(関心度)について、当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。(S A)

ア, 公益的な活動のために作った	93	64.6%
イ, 関心があり、ときどきしている	25	17.4%
ウ, 関心はあるが、していない	17	11.8%
エ, 関心がない	4	2.8%
NA(未記入)	3	2.1%
無効回答数	2	1.4%
合計	144	100.0%

年間支出額との関係を見ていくと「公益的な活動のために作った」という回答が最も多い点と、「関心はあるが、していない」団体が一定割合ある点については共通であった。

「関心があり、ときどきしている」団体の割合は年間支出額が増えるに従って減少し、「公益的な活動のために作った」の割合が増加している。

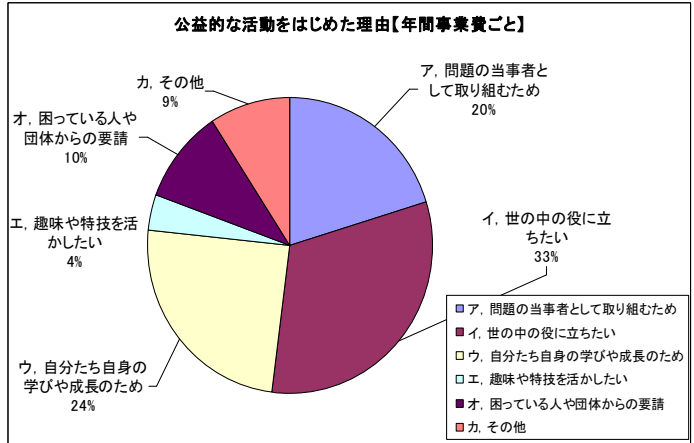


事業規模による分類	10 未満	10 以上 50 未満	50 以上 300 未満	300 以上
ア, 公益的な活動のために作った	21	18	16	10
イ, 関心があり、ときどきしている	7	6	4	1
ウ, 関心はあるが、していない	3	2	2	1
エ, 関心がない	0	0	0	0
NA(未記入)	1	0	0	0
無効回答数	1	0	1	0
合計	33	26	23	12

● 問2-2 公益的な活動をはじめた理由（単回答、有効回答数118）

実際に公益的な活動をしている団体として、問2でア、イを選んだ118団体に対して「はじめた理由」を聞いたところ、「問題の当事者として取り組むため」(20.4%)、「困っている人や団体からの要請」(10.2%)といった、「ニーズ」からはじまったケースが 30 団体 (30.6%)であった。

また、「自分たち自身の学びや成長のため」(24.5%)、「趣味や特技を活かしたい」(4.1%)といった「自己実現」のためのケースは28団体(28.6%)。「世の中の役に立ちたい」という「社会貢献」のケースが 31 団体(31.6%)となり、ほぼ3等分にわかれてきました。



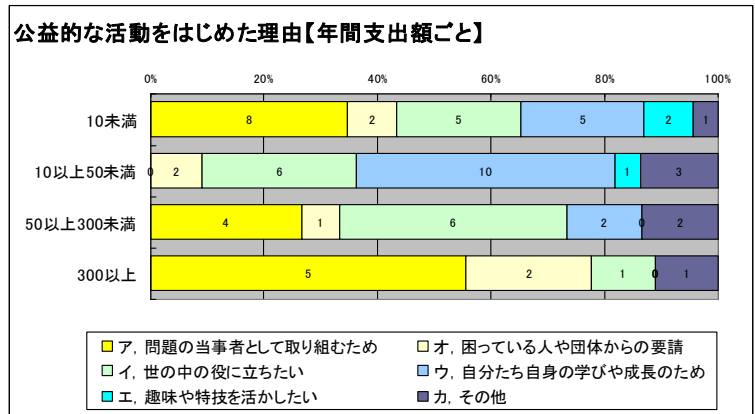
問2-2. あなたの団体が公益的な活動をはじめた理由を、以下から1つ選び○印をつけてください。

理由	回数	割合
ア、問題の当事者として取り組むため	20	20.4%
イ、世の中の役に立ちたい	31	31.6%
ウ、自分たち自身の学びや成長のため	24	24.5%
エ、趣味や特技を活かしたい	4	4.1%
オ、困っている人や団体からの要請	10	10.2%
カ、その他	9	9.2%
有効回答数	98	100.0%
NA(未記入)	1	
無効回答(複数選択)	19	

年間支出額との関係を見ていくと、「問題の当事者として取り組むため」という当事者タイプは 10 万円以上 50 万円未満の団体で回答がなかった。

「世の中の役に立ちたい」という社会貢献タイプは 300 万円未満では一定数見られるが、300 万円以上になると大きく減る。

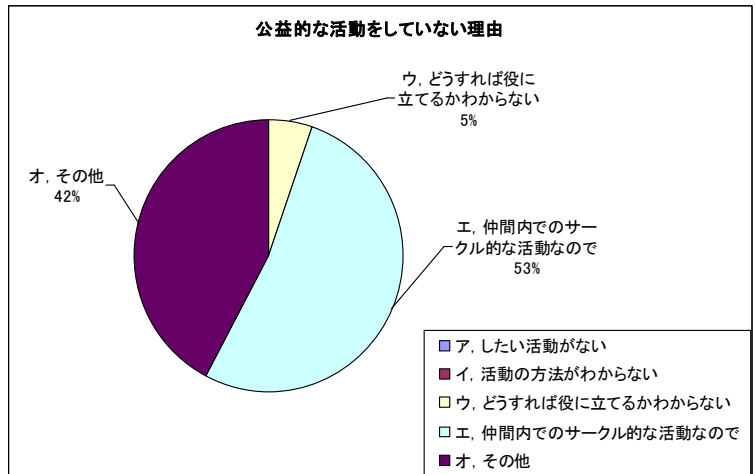
「自分たち自身の学びや成長のため」「世の中の役に立ちたい」「趣味や特技を活かしたい」という自己実現タイプは 10 万円以上 50 万円未満の団体で最も多かったが、300 万円以上の団体では大きく減っている。



	10 万未満	10 万以上 50 万未満	50 万以上 300 万未満	300 万以上
ア、問題の当事者として取り組むため	8	0	4	5
イ、世の中の役に立ちたい	5	6	6	1
ウ、自分たち自身の学びや成長のため	5	10	2	0
エ、趣味や特技を活かしたい	2	1	0	0
オ、困っている人や団体からの要請	2	2	1	2
カ、その他	1	3	2	1
有効回答数	23	22	15	9

● 問2-3 公益的な活動をしていない理由（単回答、有効回答数19）

「仲間内でのサークル的な活動なので」が 10 団体(52.6%)を占め、その他が 8 団体(42.1%)となりました。その他の記述欄は「活動を増やせない、時間がない」「現在検討中」「高齢化」などの各団体の状況や方針による理由が多かった反面、「市の事業のため」「ひと言では言えない」など設問内容を判断しかねている様子も伺えました。



ア, したい活動がない	0	0.0%
イ, 活動の方法がわからない	0	0.0%
ウ, どうすれば役に立てるか分からない	1	5.3%
エ, 仲間内でのサークル的な活動なので	10	52.6%
オ, その他	8	42.1%
有効回答数	19	100%

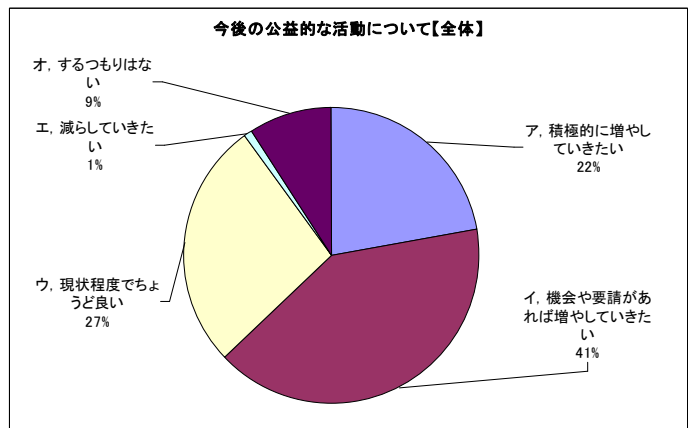
● 問3 今後の公益的な活動への取り組み意向（単回答、有効回答数140）

全体の 89 団体(62.8%)が、「積極的に増やしていきたい」または「機会や要請があれば増やしていきたい」と応えており、意欲的な様子が伺えます。

「現状程度でちょうど良い」は 38 団体(27.1%)で、3 割近い団体が活動の拡大を考えていない現状がわかります。

以上を合計すると 126 団体(89.9%)と非常に多くの団体が継続の意欲をもっていると考えられます。

一方で「減らしていきたい」団体は1団体(0.7%)であり、「するつもりはない」が 13 団体(9.3%)となり、約 1 割が公益的な活動への意欲が消極的となっています。



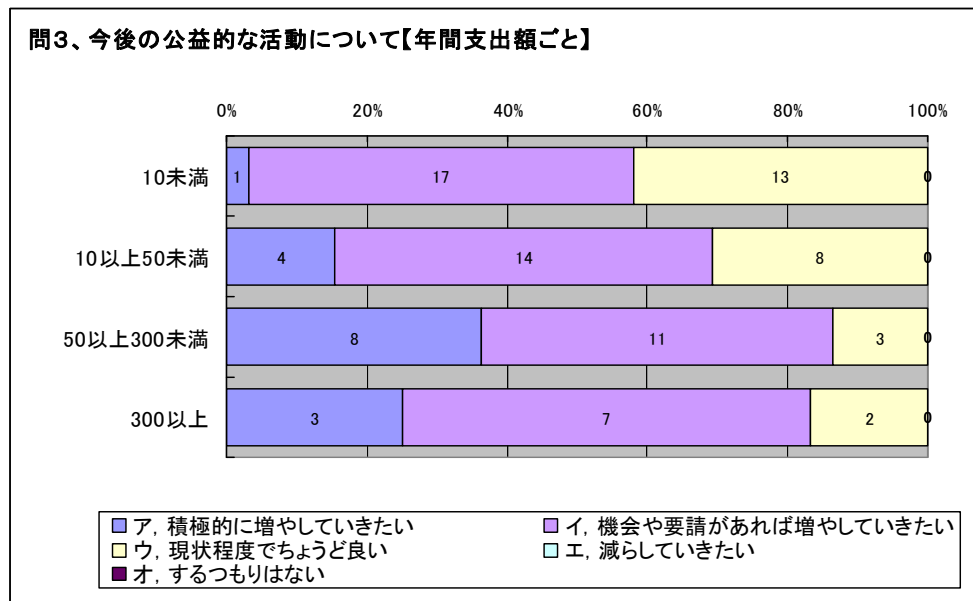
ア, 積極的に増やしていきたい	31	22.1%
イ, 機会や要請があれば増やしていきたい	57	40.7%
ウ, 現状程度でちょうど良い	38	27.1%
エ, 減らしていきたい	1	0.7%
オ, するつもりはない	13	9.3%
有効回答者数	140	

年間支出額との関係を見てみると、10 万円未満の団体及び 10 万円上 50 万円未満の団体では、「機会や要請があれば増やしていきたい」が一番多く、次に「現状程度でちょうど良い」であり、基本的には現状のまま活動を続けたいと考えられていることがわかります。

一方で、50 万円以上 300 万円未満の団体や、300 万円以上の団体は、一番多い回答は同じ「機会や要請があれば増やしていきたい」ですが、次に多い回答が「積極的に増やして行きたい」であり、

基本的には拡大したい事を考えていることがわかります。

尚、年間支出額を記入した団体には「エ、減らしていきたい」「オ、するつもりはない」を選んだ団体がありませんでした。(エ、オを選んだ団体は年間支出額を記入していないため。)



	10 未満	10 以上 50 未満	50 以上 300 未満	300 以上
ア, 積極的に増やしていきたい	1	4	8	3
イ, 機会や要請があれば増やしていきたい	17	14	11	7
ウ, 現状程度でちょうど良い	13	8	3	2
エ, 減らしていきたい	0	0	0	0
オ, するつもりはない	0	0	0	0

II. 団体の活動状況、場所、人材、資金などについて

※ 問3「今後、公益的な活動をどのようにしたいですか」で「するつもりはない」以外を選択した132団体が対象です。

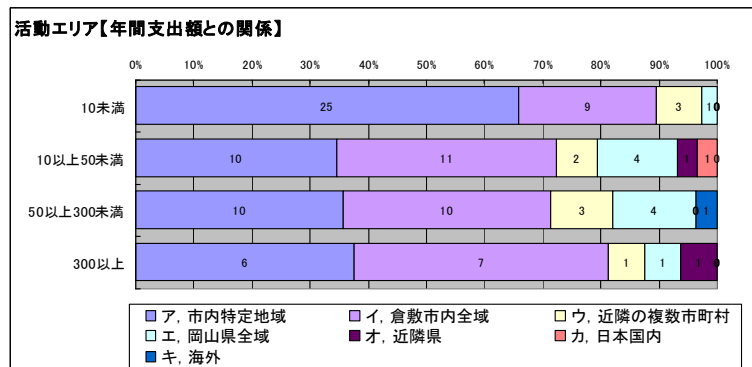
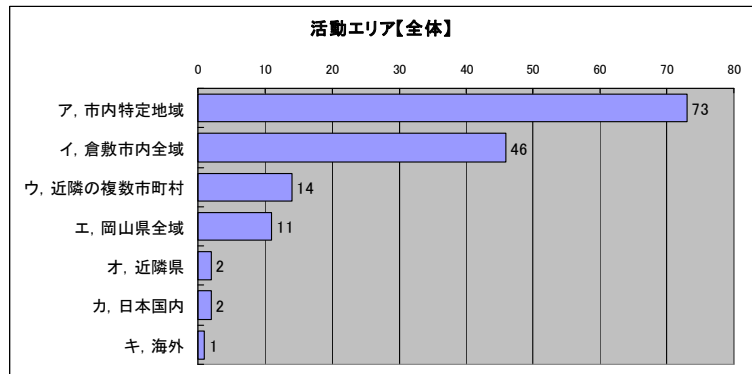
II-① 問4 団体の活動状況・内容について(団体基本情報)

● 現在活動を行っている主な地域（複数回答）

119 団体(79.9%)が倉敷市内で活動しており、そのうちの 73 団体(49%)は市内の特定地域で活動しています。

年間支出額ごとに関係を見てみると、10 万円未満の団体はその 2/3 が「市内特定地域」で活動しています。

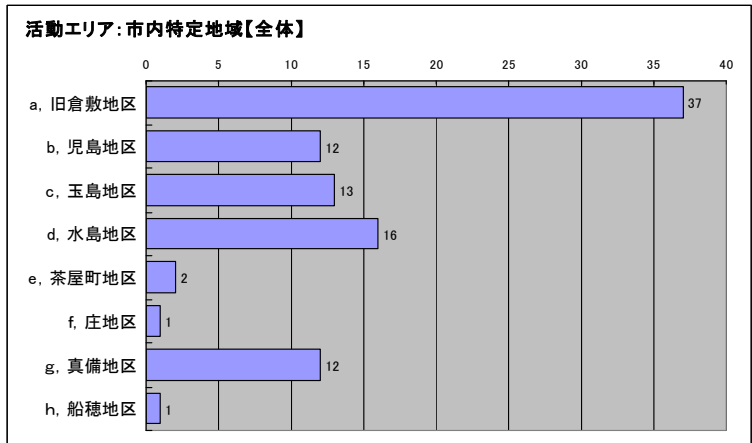
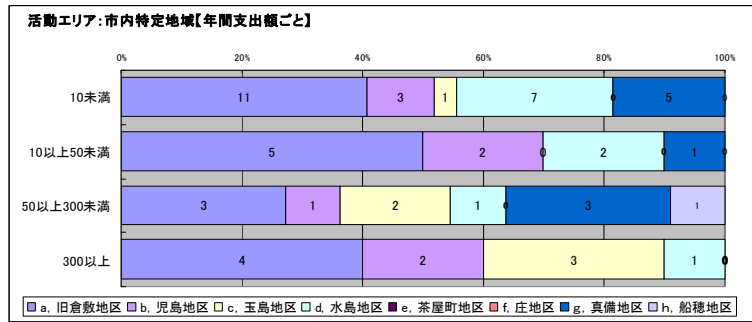
その他の 10 万円以上 50 万円未満の団体と 50 万円以上 300 万円未満の団体、そして 300 万円以上の団体は、「市内特定地域」と「倉敷市内全域」がほぼ同数であり、倉敷市を基本的なフィールドにしながら 2 つに分かれているのがわかります。



問4、活動を行っている主な地域	数 (全体)	割合 (全体)	10 未満	10 以上 50 未満	50 以上 300 未満	300 以上
ア, 市内特定地域	73	49.0%	25	10	10	6
イ, 倉敷市内全域	46	30.9%	9	11	10	7
ウ, 近隣の複数市町村	14	9.4%	3	2	3	1
エ, 岡山県全域	11	7.4%	1	4	4	1
オ, 近隣県	2	1.3%	0	1	0	1
カ, 日本国内	2	1.3%	0	1	0	0
キ, 海外	1	0.7%	0	0	1	0
有効回答者数	149	100.0%	38	29	28	16

市内特定地域の内訳を見てみると、37 団体(39.4%)は旧倉敷市内であり、ついで、水島、玉島、児島と真備の順となっています。

年間支出額との関係を見てみると、10 万円未満の団体及び 10 万円以上 50 万円未満の団体では旧倉敷地区の団体が多く、10 万円未満の団体では、次に水島地区の団体が多くなっていますが、10 万円未満の団体では児島地区及び水島地区が同数になっています。また、50 万円以上 300 万円未満の団体では旧倉敷地区と真備地区が同数、300 万円以上では旧倉敷地区と玉島地区が多いなど、それぞれの事業規模でバラバラの結果になりましたが、いずれも旧倉敷地区の比率が多い状況でした。



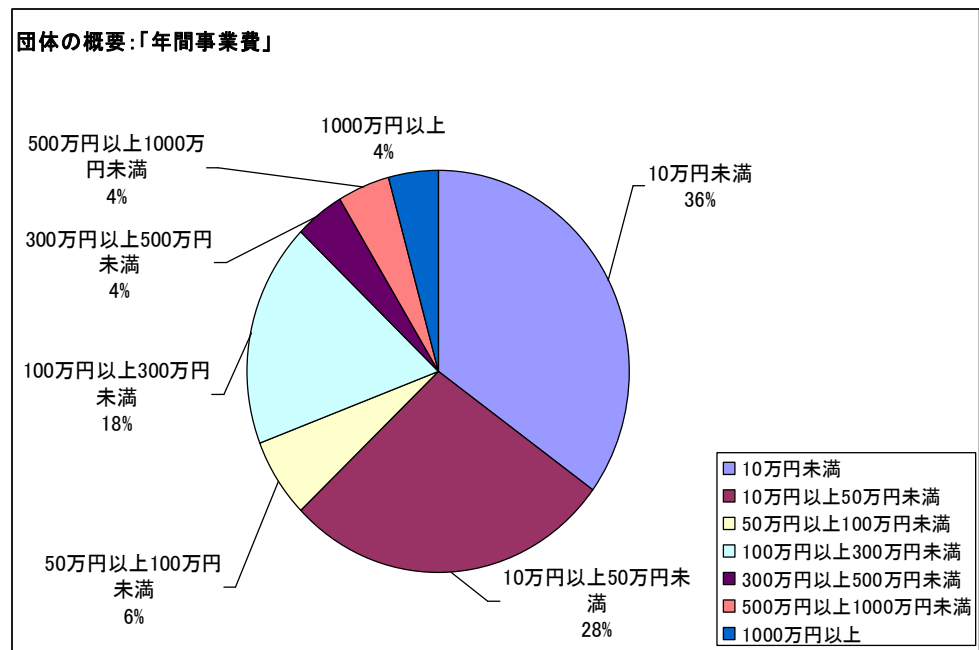
	10万円未満	10万円以上 50万円未満	50万円以上 300万円未 満	300万円以 上
a, 旧倉敷地区	11	5	3	4
b, 児島地区	3	2	1	2
c, 玉島地区	1	0	2	3
d, 水島地区	7	2	1	1
e, 茶屋町地区	0	0	0	0
f, 庄地区	0	0	0	0
g, 真備地区	5	1	3	0
h, 船穂地区	0	0	1	0
有効回答者数	27	10	11	10

● 年間支出額(単回答、有効回答数94)

年間支出額を見ると、右の表になった。50 万円未満の団体が 59 団体(62.8%)と半数以上を占めており、事業規模の小さな団体が圧倒的に多いといえます。

一方で 100 万円以上 300 万円未満は 17 団体(18.1%)と約 2 割あり、500 万円以上は 8 団体(8.6%)でした。

年間支出額	団体数	割合
10 万円未満	33	35.1%
10 万円以上 50 万円未満	26	27.7%
50 万円以上 100 万円未満	6	6.4%
100 万円以上 300 万円未満	17	18.1%
300 万円以上 500 万円未満	4	4.3%
500 万円以上 1000 万円未満	4	4.3%
1000 万円以上	4	4.3%
合計	94	100.0%

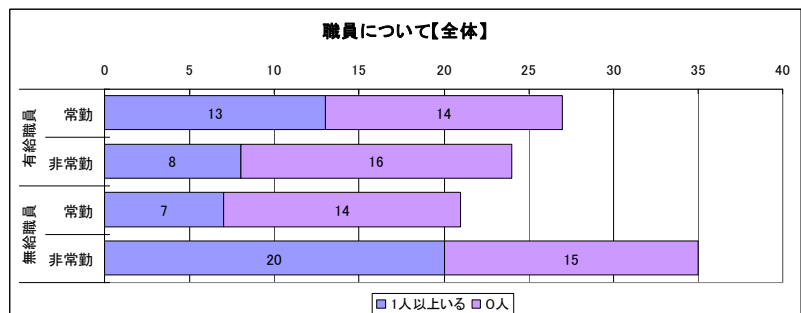


● 職員数 スタッフ数(複数回答)

1 名以上有給職員のいる団体は 21 団体(8%)であり、うち 13 団体(62%)が常勤職員で、8 団体(38%)が週3日以下の非常勤職員でした。

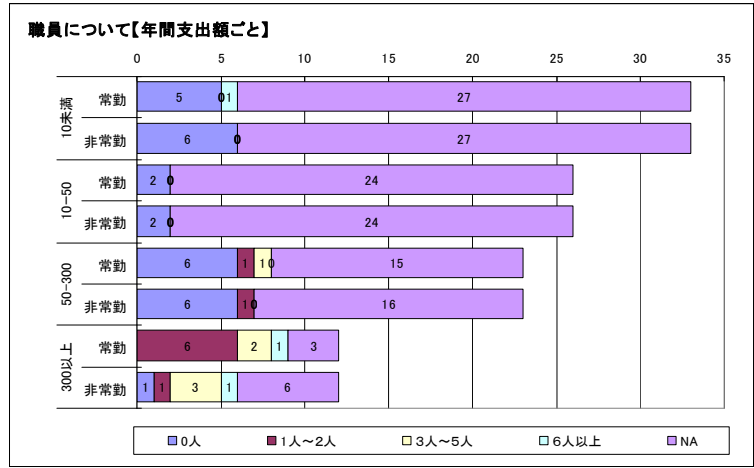
また、1 名以上無給職員

のいる団体は 27 団体(10%)であり、うち 7 団体(26%)が常勤職員で、20 団体(74%)が週3日以下の非常勤職員でした。



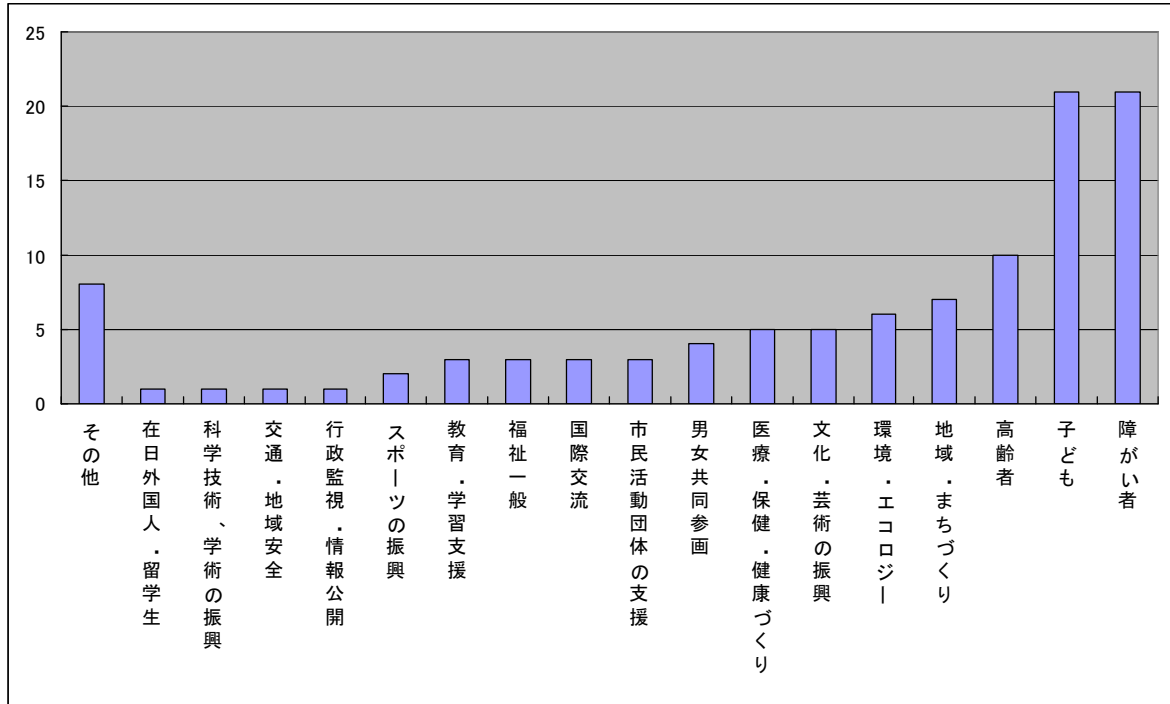
		1人以上	0人	NA
有給職員	常勤	13	14	105
	非常勤	8	16	108
無給職員	常勤	7	14	111
	非常勤	20	15	97

年間支出額ごとにみると 10 万円未満の団体と10万円以上 50万円未満の団体には、ほとんど職員はおらず、50万円以上 300万円未満で、1人～2人いるところがあり、300万円以上では、最大5人以上の職員がいることが分かります。有給職員の雇用は人件費として財政と結びつくため、その結果がストレートにでていと考えられます。



● 主な活動分野（単回答、有効回答数103）

障がい者・子どもの分野が最も多く、次いで、高齢者、まちづくり、環境、文化の順となっていました。

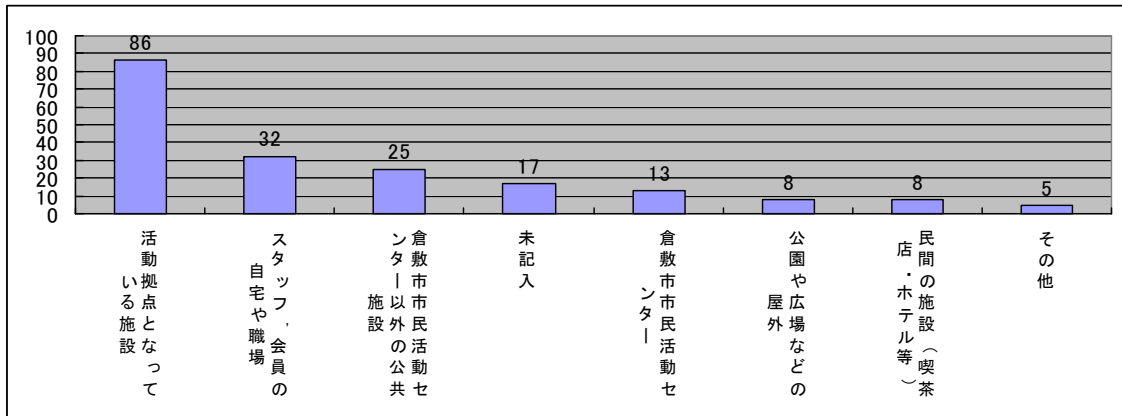


II-② 場所・施設・機材について

● 問5-1 活動や打合せを行う場所（複数回答、有効回答数126）

67%の団体が活動拠点となっている施設で活動や打ち合わせをおこなっています。

なお、倉敷市市民活動センターと回答した団体は20%でした。



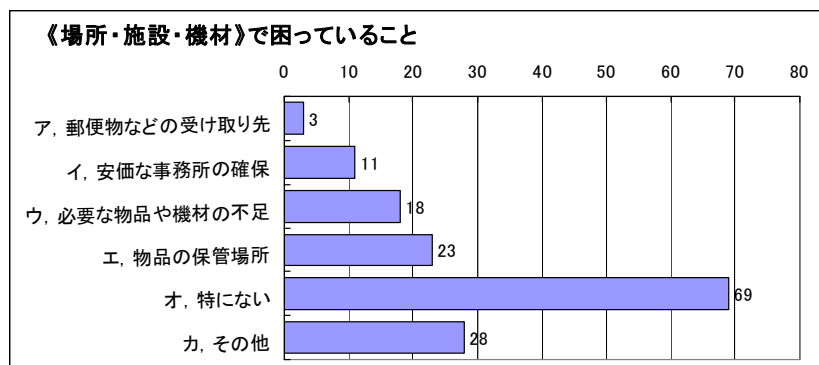
● 問5-2 活動や打合せを行う曜日、時間（複数回答、有効回答数205）

土曜、日曜の週末に行っている団体は 44 団体、平日に行っている団体は 52 団体、平日と週末の両方に行っている団体は 19 団体あった。

午前(12時まで)に行っている団体は 71 団体、午後(13時～17時)に行っている団体は 62 団体、午前から午後へかけて行っている団体が26団体、夕方・夜間に行っている団体が31団体となった。夜間では 16時まで(1)、19時まで(1)、19時30分まで(1)、20時まで(2)、20時30分まで(3)21時まで(19)、21時30分まで(1)、22時まで(1)、23時まで(1)、24時まで(1)となり、21時までが最も多くなった。これはくらしき健康福祉プラザ、倉敷市市民活動センターなどの開館時間が21時までである事も影響していると考えられる。

● 問6 場所・施設・機材で困っていること（複数回答、有効回答数152）

特にないが多かった(69 団体・45.4%)ものの、23 団体(15.1%)が物品の保管場所、18 団体(11.8%)が必要な物品や機材の不足をあげている。



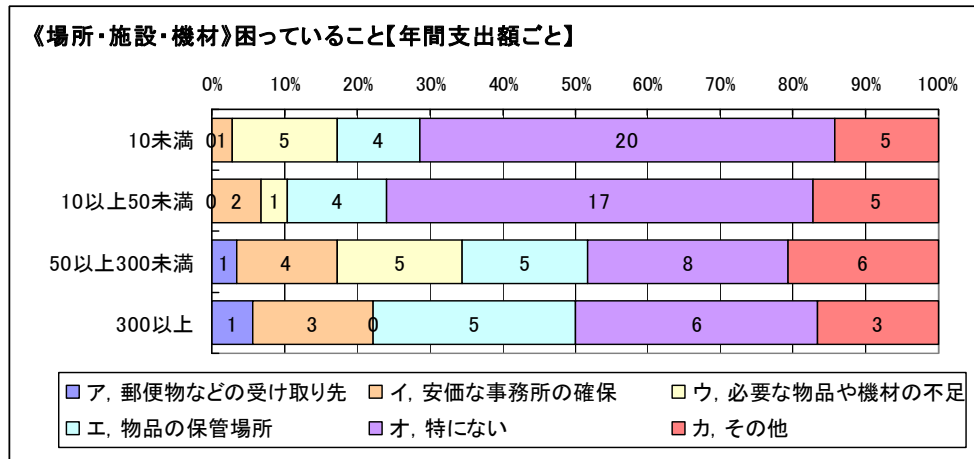
年間支出額ごとに見ると、10 万円未満の団体及び 10 万円以上 50 万円未満の団体で「特にない」が最も多くなっている。

「必要な物品や機材の不足」は 50 万円以上 300 万円未満の団体では 5 団体が挙げているのに対し、300 万円以上の団体では0となっている。財政規模が大きくなり、物品の確保ができてい

が推察される。

「安価な事務所の確保」については、10万円未満、10万円以上50万円未満の団体では少ないが、50万円以上300万円未満の団体では4団体、300万円以上の団体では3団体が挙げている。

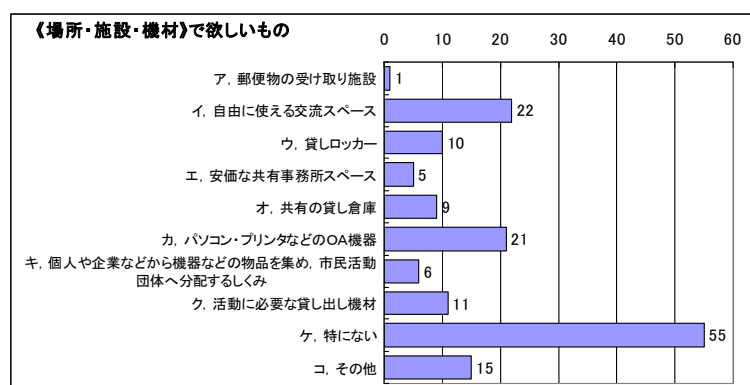
「物品の保管場所」については、年間支出額に関わらず4～5団体が挙げており、ニーズが高いことが分かります。



	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア, 郵便物などの受け取り先	0	0	1	1
イ, 安価な事務所の確保	1	2	4	3
ウ, 必要な物品や機材の不足	5	1	5	0
エ, 物品の保管場所	4	4	5	5
オ, 特にない	20	17	8	6
カ, その他	5	5	6	3

● 問7 場所・施設・機材で欲しいもの（複数回答、有効回答数155）

「特にない」が55団体(35.5%)と最も多くなりましたが、次には、22団体(14.2%)が「自由に使える交流スペース」を、21団体(13.5%)が、「パソコン・プリンタなどのOA機器」をあげています。

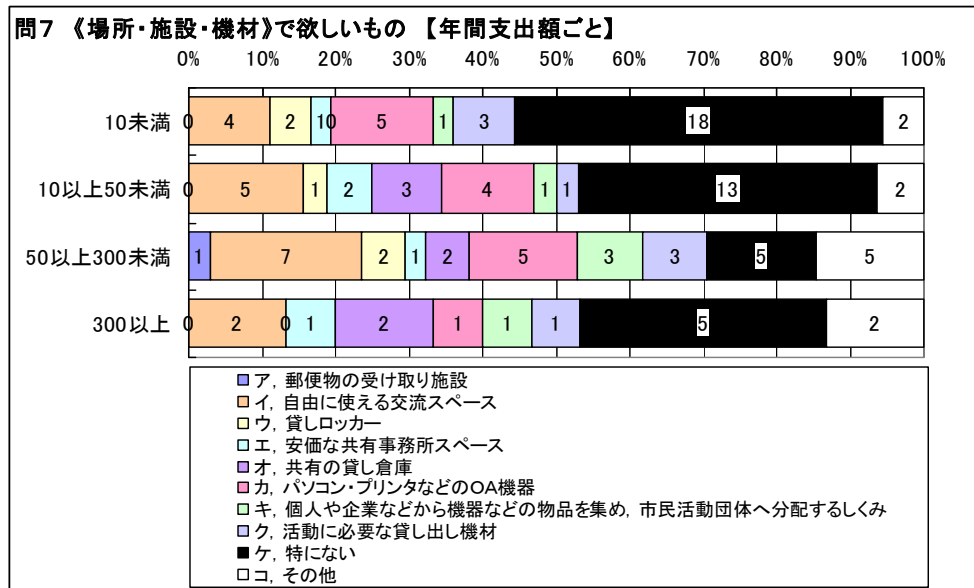


年間支出額ごとにみると、「特にない」は50万円以上300万円以下の団体で最も少なくなっており、この財政規模の団体は支援ニーズが高い事がわかる。

「自由に使える交流スペース」「共有の貸倉庫」はいずれの事業規模でも一定の団体が挙げており、財政規模に関わらずニーズが高い事がわかる。

10万円未満の団体、10万円以上50万円未満の団体、50万円以上300万円未満の団体では

「パソコン・プリンタなどのOA機器」へのニーズが高くなっている。

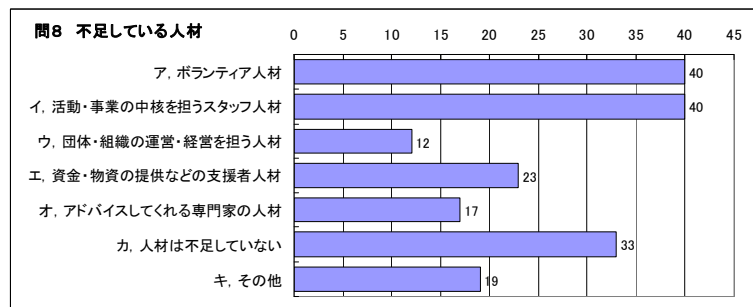


	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア, 郵便物の受け取り施設	0	0	1	0
イ, 自由に使える交流スペース	4	5	7	2
ウ, 貸しロッカー	2	1	2	0
エ, 安価な共有事務所スペース	1	2	1	1
オ, 共有の貸し倉庫	0	3	2	2
カ, パソコン・プリンタなどのOA機器	5	4	5	1
キ, 個人や企業などから機器などの物品を集め, 市民活動団体へ分配するしくみ	1	1	3	1
ク, 活動に必要な貸し出し機材	3	1	3	1
ケ, 特にない	18	13	5	5
コ, その他	2	2	5	2
有効回答数	36	32	34	15

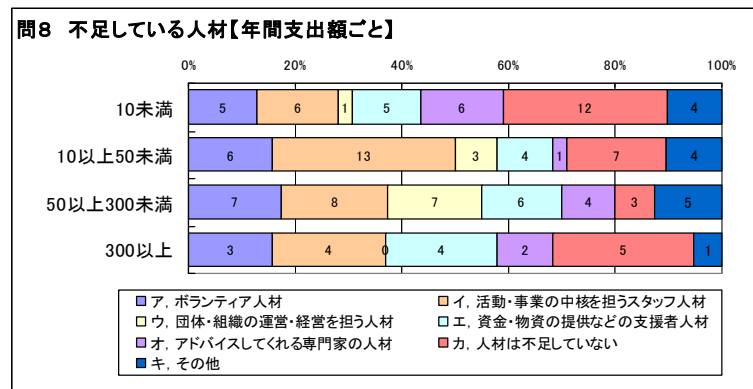
II-③ 人材について

● 問8 団体で不足している人材（複数回答、有効回答数184）

「ボランティア人材」と「活動・事業の中核を担うスタッフ人材」をそれぞれ 40 団体 (21.7%) があげていますが、一方で、33 団体 (17.9%) は「人材は不足していない」と回答しています。



年間支出額ごとにみると、10 万円未満の団体では「人材は不足していない」が最も多く、ついで「活動・事業の中核を担うスタッフ人材」と「アドバイスしてくれる専門家の人材」が同数となっています。



10 万円以上 50 万円未満の団体では「活動・事業の中核を担うスタッフ人材」が最も多く、ついで「人材は不足していない」、「ボランティア人材」となっています。

50 万円以上 300 万円未満の団体では、「活動・事業の中核を担うスタッフ人材」が最も多く、ついで「ボランティア人材」、「資金・物資の提供などの支援人材」となっています。

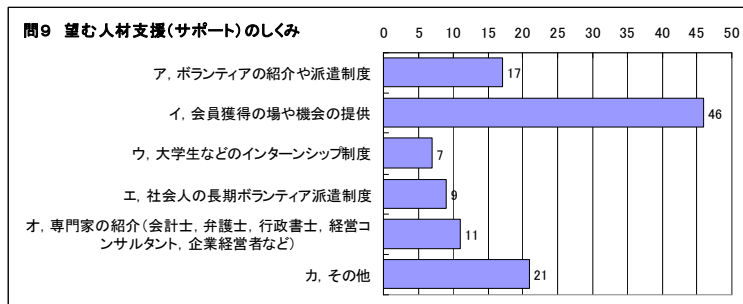
300 万円以上の団体では「活動・事業の中核を担うスタッフ人材」と「資金・物資の提供などの支援人材」が同数ですが、もっとも多いのは「人材は不足していない」でした。

事業規模が大きくなるに連れて、「支援人材」を必要としていることがわかります。また、どの事業規模でも「中核を担うスタッフ人材」を必要としていることもわかります。

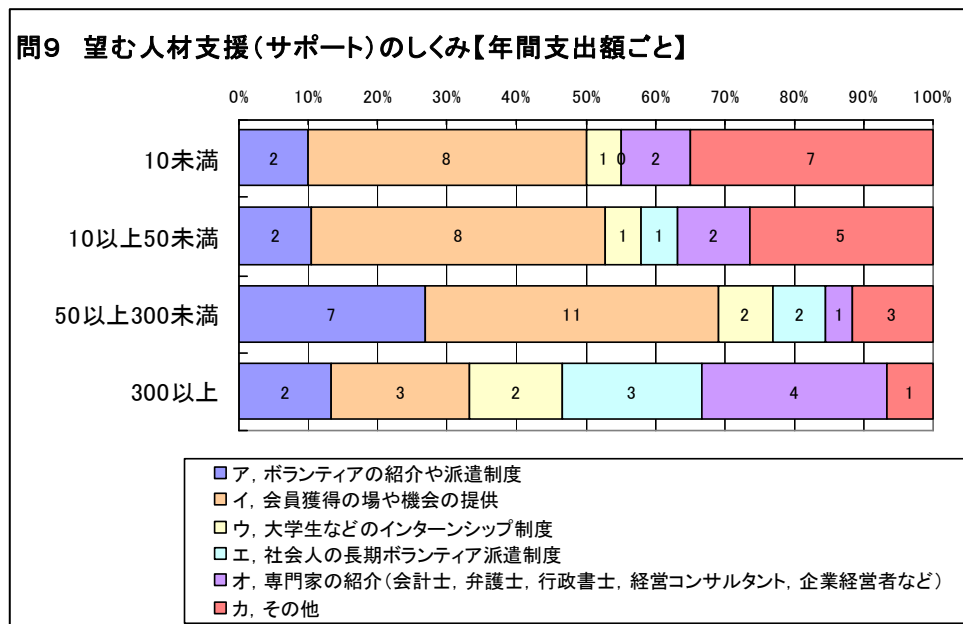
	10万円未満	10万円以上 50万円未満	50万円 以上 300 万円未 満	300万円 以上
ア, ボランティア人材	5	6	7	3
イ, 活動・事業の中核を担うスタッフ人材	6	13	8	4
ウ, 団体・組織の運営・経営を担う人材	1	3	7	0
エ, 資金・物資の提供などの支援者人材	5	4	6	4
オ, アドバイスしてくれる専門家の人材	6	1	4	2
カ, 人材は不足していない	12	7	3	5
キ, その他	4	4	5	1
有効回答者数	39	38	40	19

● 問9 欲しい人材支援のしくみ（複数回答、有効回答数111）

半数近くとなる46団体(41.4%)が「会員獲得の場や機会の提供」を望んでおり、ついで「ボランティアの紹介・派遣」を17団体(15.3%)が望んでいます。なお、「大学生などのインターンシップ制度」を希望する団体は、7団体(6.3%)に留まり、「社会人の長期ボランティア派遣制度」よりも「社会人の長期ボランティア制度」よりも少ない結果になりました。



年間支出額ごとにみても、50万円以上300万円未満の団体でも、「会員獲得の場や機会の提供」がもっとも多いことが分かります。また、50万円以上300万円未満の団体のみ「ボランティアの紹介・派遣」についての希望も多いことが分かります。300万円以上の団体では回答が割れ、「専門家の紹介」が僅差で多いものの、「会員獲得の場や機会の提供」と「社会人の長期ボランティア派遣制度」が同数となっています。

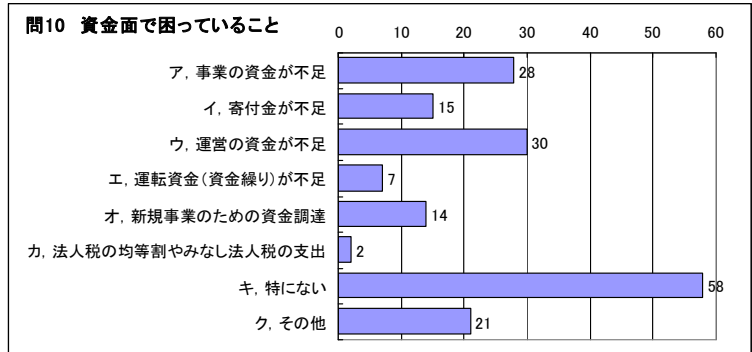


	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア, ボランティアの紹介や派遣制度	2	2	7	2
イ, 会員獲得の場や機会の提供	8	8	11	3
ウ, 大学生などのインターンシップ制度	1	1	2	2
エ, 社会人の長期ボランティア派遣制度	0	1	2	3
オ, 専門家の紹介(会計士, 弁護士, 行政書士, 経営コンサルタント, 企業経営者など)	2	2	1	4
カ, その他	7	5	3	1
有効回答数	20	19	26	15

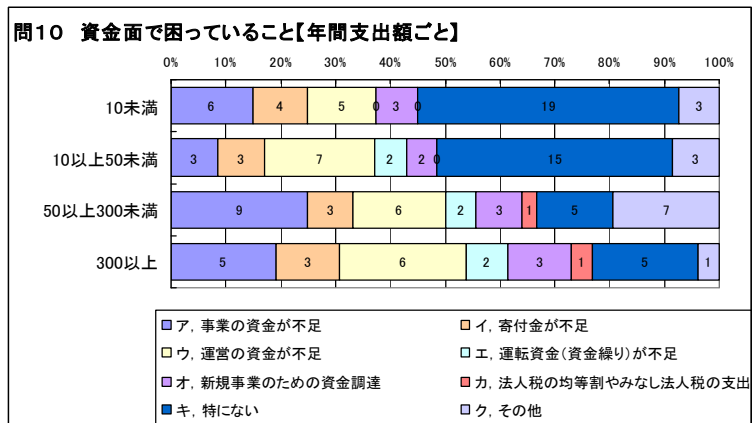
II-④ 資金について

● 問10 資金面で困っていること（複数回答、有効回答数175）

約3割を占める58団体(33.1%)が資金面で困っていることは「特にない」と回答しています。次いで「運営の資金が不足」(30 団体・17.1%)があげられていますが、「事業の資金が不足」(28 団体・16%)と僅差でした。なお、「法人税の均等割やみなし法人税の支出」をあげる団体は 2 団体(1.1%)に留まりましたが、これは法人格を持つ団体が調査対象に少ないことが関係していると考えられます。



年間支出額ごとにみても、10万円未満の団体と10万円以上50万円未満の団体では「特にない」が半数以上となりましたが、次点としてはいずれも「運営の資金が不足」があげられました。一方、それ以上の事業規模の団体は資金面の困りごと多様であり、50万円以上300万円未満の団体では、「事業の資金が不足」が最も多く、次いで「運営の資金が不足」となっています。300万円以上の団体では「運営の資金が不足」と「事業の資金が不足」の差は僅差であり、事業規模の大きな団体では事業・運営いずれの資金についても危機感をもっていることがわかります。

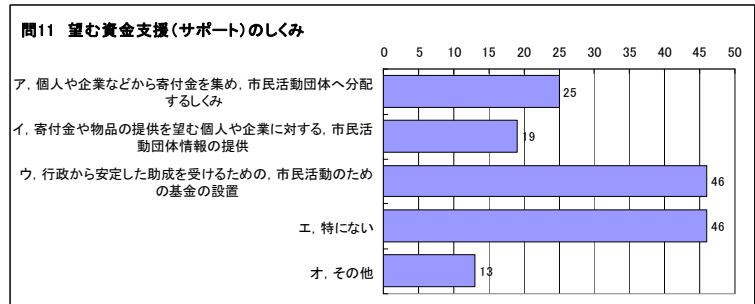


	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア, 事業の資金が不足	6	3	9	5
イ, 寄付金が不足	4	3	3	3
ウ, 運営の資金が不足	5	7	6	6
エ, 運転資金(資金繰り)が不足	0	2	2	2
オ, 新規事業のための資金調達	3	2	3	3
カ, 法人税の均等割やみなし法人税の支出	0	0	1	1
キ, 特にない	19	15	5	5
ク, その他	3	3	7	1
有効回答数	40	35	36	26

● 問11 望む資金支援のしくみ（複数回答、有効回答数149）

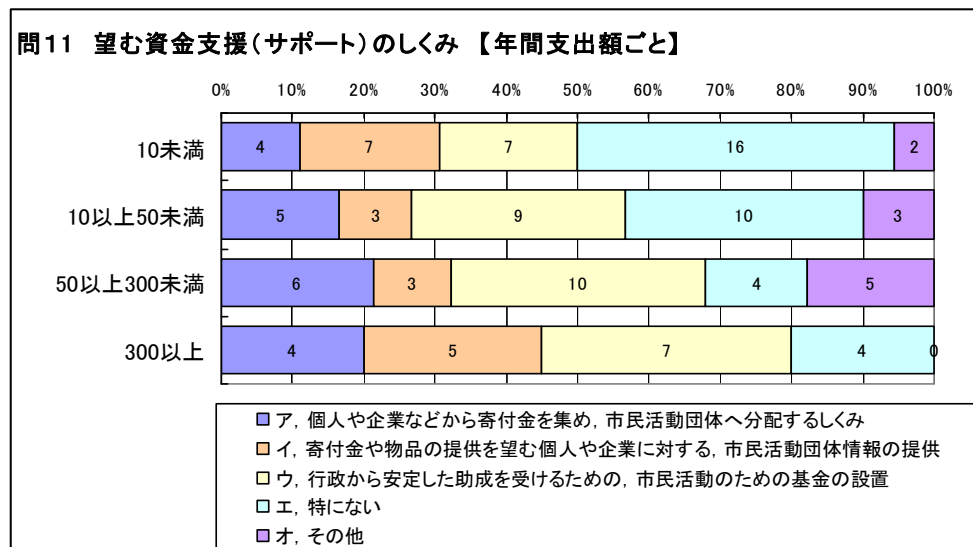
望む資金支援財源としては、「行政から安定した助成を受けるための、市民活動のための基金の設置」が 46 団体 (30.9%) と多くなり、「個人や企業などから寄付金を集め、市民活動団体へ分配するしくみ」の 25 団体 (16.8%) を大きく上回りました。資金支援先として行政に頼る傾向がある事がわかります。

「特にない」を選んだ団体も 46 団体 (30.9%) であり、資金支援を望まない団体も多くなっています。



年間支出額ごとにみると、10 万円未満の団体と 10 万円以上 50 万円未満の団体では「特にない」がもっとも多くなっています。次点をみると、10 万円未満の団体では「個人や企業などから寄付金を集め、市民活動団体へ分配するしくみ」、「行政から安定した助成を受けるための、市民活動のための基金の設置」が同数でした。

10 万円以上 50 万円未満、50 万円以上 300 万円未満、300 万円以上の団体では「個人や企業などから寄付金を集め、市民活動団体へ分配するしくみ」よりも「行政から安定した助成を受けるための、市民活動のための基金の設置」を望む方が多い結果となりました。



	10 万円未満	10 万円以上 50 万円未満	50 万円以上 300 万円未満	300 万円以上
ア, 個人や企業などから寄付金を集め、市民活動団体へ分配するしくみ	4	5	6	4
イ, 寄付金や物品の提供を望む個人や企業に対する、市民活動団体情報の提供	7	3	3	5
ウ, 行政から安定した助成を受けるための、市民活動のための基金の設置	7	9	10	7
エ, 特にない	16	10	4	4
オ, その他	2	3	5	0
有効回答数	36	30	28	20

II-⑤ 情報開示(公開と発信)について

● 問12 情報公開しているもの(複数回答、有効回答数365)

NPO法人の情報開示対象となっている3つの書類、規約や会則(63団体・17.3%)、事業報告書(54団体・14.8%)、決算報告書(49団体・13.4%)については多くの団体で公開されています。

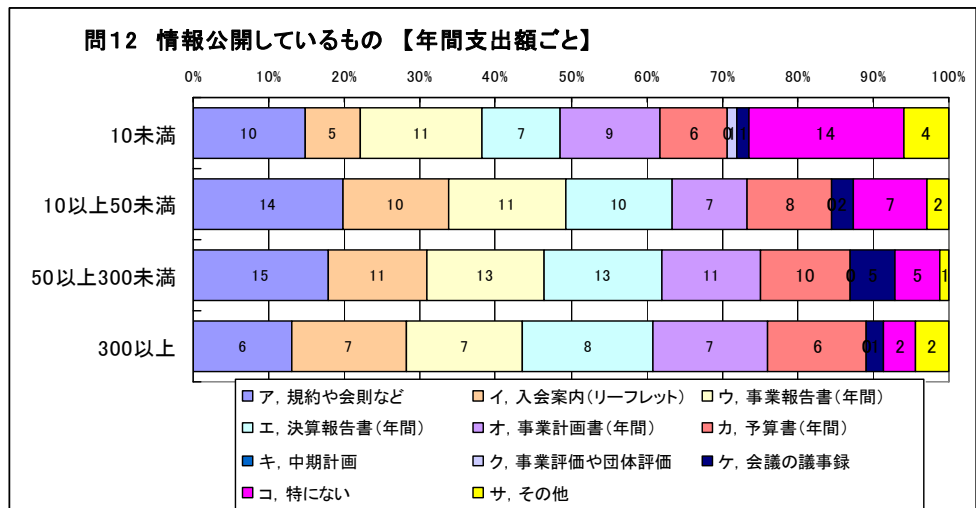
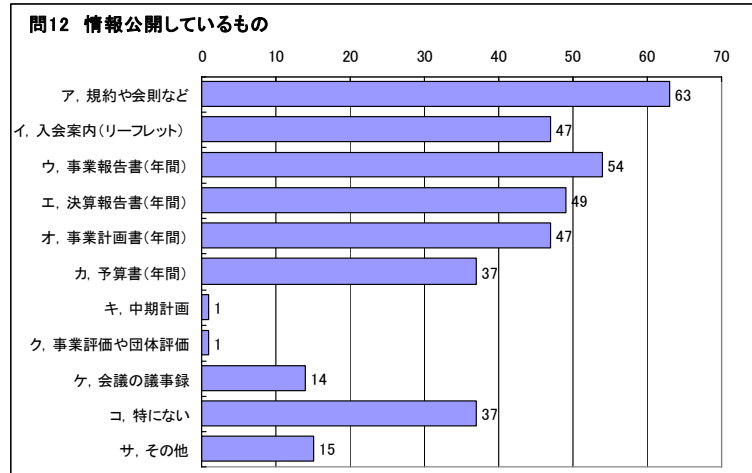
また、事業計画書、予算書もそれぞれ47団体(12.9%)と37団体(10.1%)

と多くの団体で公開されています。これらの書類は活動を計画的に行うために必須の書類であり、その情報開示にも積極的な様子が窺えます。

一方で、「特にない」を選択した団体も37団体(10.1%)ありました。

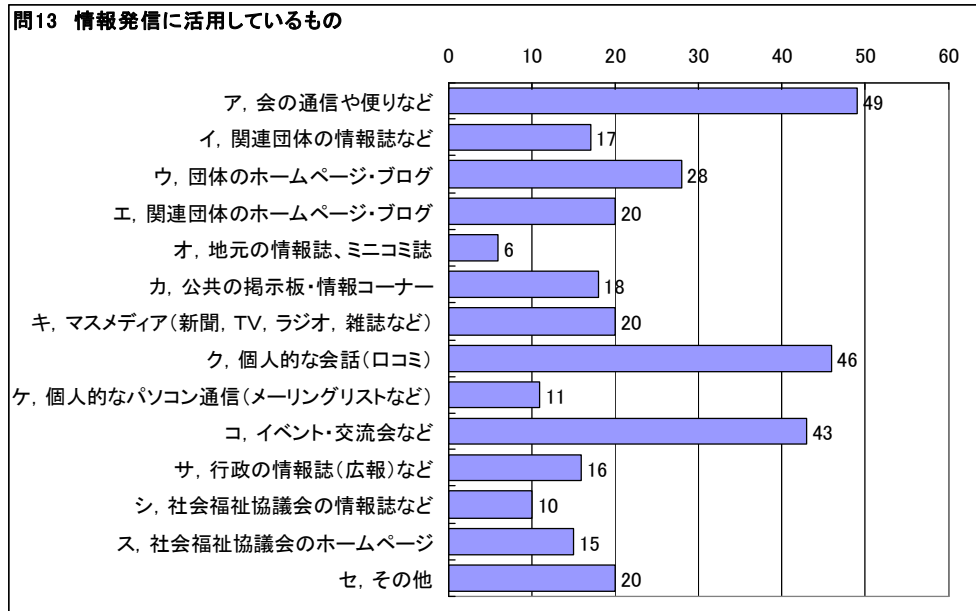
また、「中期計画」と「事業評価や団体評価」を公開している団体は1団体(0.3%)にとどまりました。

年間支出額ごとにみても、10万円未満の団体では「特にない」が最も多くなっていますが、それ以上の団体では、ほぼ全体傾向と同じであり、事業規模が大きくなるごとに「特にない」の回答が減っています。扱う予算が増え、事業が大きくなるにつれて説明責任を求められる場面が多くなり、それに対応して情報公開がすすんでいると考えられます。

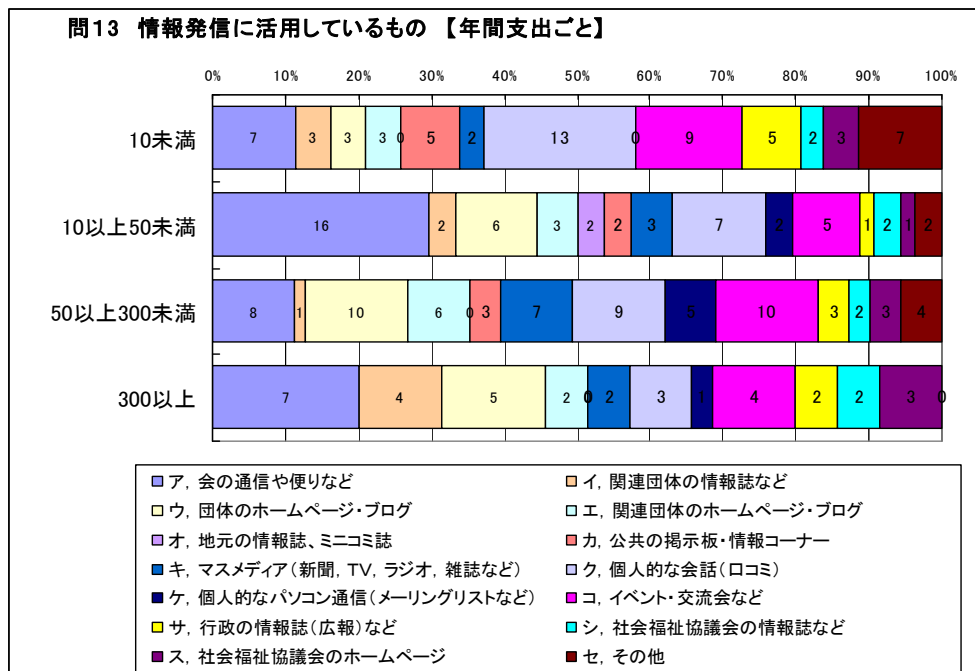


● 問13 情報発信に活用しているもの（複数回答、有効回答数319）

「会の通信や便りなど」(49 団体・15.4%)「個人的な会話」(46 団体・14.4%)「イベント・交流会など」(43 団体・13.5%)の3つが多く、会報・ロコミ・イベントの3つが情報発信の中心的手段であることがわかりました。一方で、「団体のホームページ・ブログ」(28 団体・8.8%)がその3つの次にきており、「マスメディア」(20 団体・6.3%)よりも多いなど、インターネットを利用した情報発信が増えてきたことがわかります。



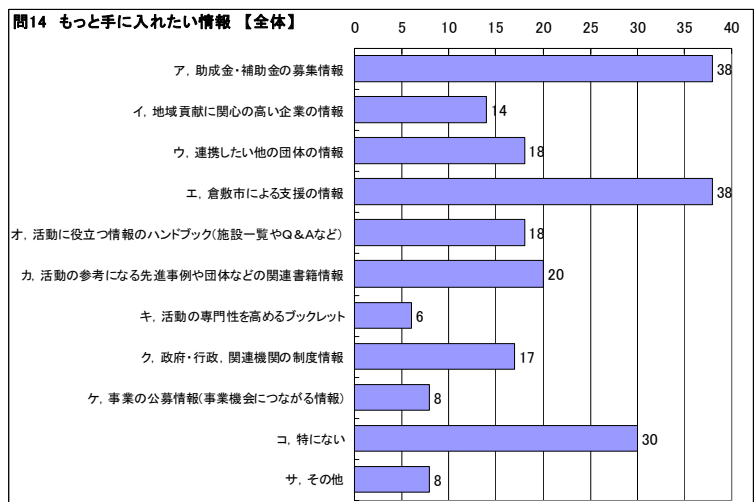
年間事業ごとにみても、それぞれで差があることがわかりました。10 万円未満の団体では、「個人的な会話」が最も多く、ついで「イベント・交流会」、「会の通信や便りなど」の順となっています。10 万円以上 50 万円未満の団体では、「会の通信や便りなど」が一番であり、ついで「個人的な会話」、「団体のホームページやブログ」の順になっています。50 万円以上 300 万円未満の団体では「団体のホームページやブログ」と「イベント・交流会」が同数で一番であり、ついで「個人的な会話」、「会の通信や便りなど」の順となっています。300 万円以上の団体では、「会の通信や便りなど」が一番多く、ついで「団体のホームページやブログ」、「イベント・交流会」と同数で「関連団体の情報誌など」の順となっています。



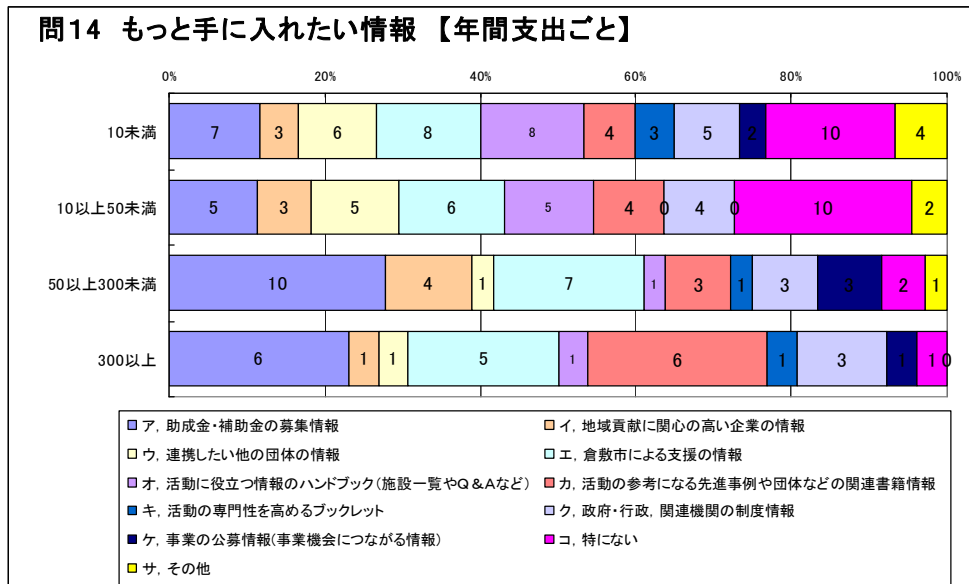
	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア, 会の通信や便りなど	7	16	8	7
イ, 関連団体の情報誌など	3	2	1	4
ウ, 団体のホームページ・ブログ	3	6	10	5
エ, 関連団体のホームページ・ブログ	3	3	6	2
オ, 地元の情報誌、ミニコミ誌	0	2	0	0
カ, 公共の掲示板・情報コーナー	5	2	3	0
キ, マスメディア(新聞, TV, ラジオ, 雑誌など)	2	3	7	2
ク, 個人的な会話(ロコミ)	13	7	9	3
ケ, 個人的なパソコン通信(メーリングリストなど)	0	2	5	1
コ, イベント・交流会など	9	5	10	4
サ, 行政の情報誌(広報)など	5	1	3	2
シ, 社会福祉協議会の情報誌など	2	2	2	2
ス, 社会福祉協議会のホームページ	3	1	3	3
セ, その他	7	2	4	0
有効回答数	62	54	71	35

● 問14 もっと手に入れたい情報（複数回答、有効回答数215）

「倉敷市による支援の情報」(38 団体・17.7%)と、「助成金・補助金の募集情報」(31%)が同数でもっとも多く、資金に関する質問への回答と同様に行政機関の情報に期待していることが分かりました。また、ここでも 30 団体(14%)が「特にない」と回答しています。また、これも資金に関する質問と同傾向に、「地域貢献に関心の高い企業の情報」と回答する団体は少なく、14 団体(6.5%)に留まりました。



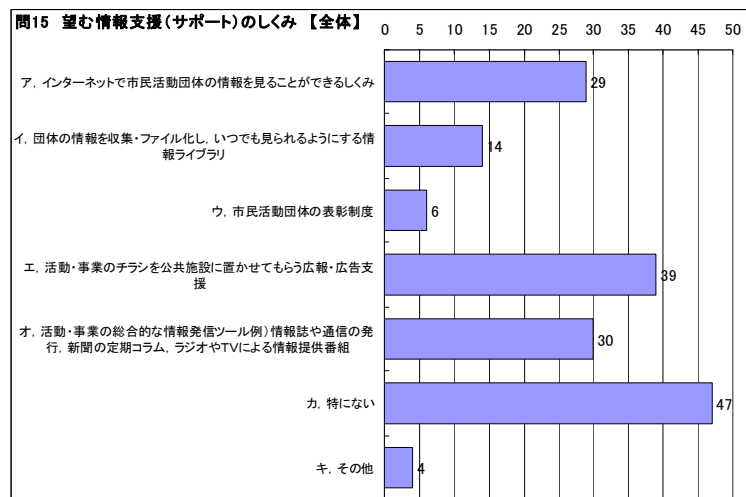
年間支出額ごとにしてみると、10万円未満の団体と10万円以上50万円未満の団体では、「特にない」がもっとも多く、ついで「助成金・補助金の募集情報」「倉敷市による支援の情報」と活動に役立つ情報のハンドブックがほぼ同数となりました。50万円以上300万円未満の団体と300万円以上の団体では、「特にない」を選ぶ団体はほとんどおらず、「助成金・補助金の募集情報」と「倉敷市による支援の情報」が多くなっています。また、300万円以上の団体では「活動の参考になる先進事例や団体などの関連書籍情報」も多く、活動をさらに高めるための学びに意欲的なことがわかります。



	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア, 助成金・補助金の募集情報	7	5	10	6
イ, 地域貢献に関心の高い企業の情報	3	3	4	1
ウ, 連携したい他の団体の情報	6	5	1	1
エ, 倉敷市による支援の情報	8	6	7	5
オ, 活動に役立つ情報のハンドブック(施設一覧やQ&Aなど)	8	5	1	1
カ, 活動の参考になる先進事例や団体などの関連書籍情報	4	4	3	6
キ, 活動の専門性を高めるブックレット	3	0	1	1
ク, 政府・行政, 関連機関の制度情報	5	4	3	3
ケ, 事業の公募情報(事業機会につながる情報)	2	0	3	1
コ, 特にない	10	10	2	1
サ, その他	4	2	1	0
有効回答数	60	44	36	26

● 問15 望む情報支援のしくみ（複数回答、有効回答数169）

もっとも多い「特にない」(47 団体・27.8%)を除くと、「活動・事業のチラシを公共施設に置かせてもらう広報・広告支援」が多く、39 団体(23.1%)がそう回答しています。ついで「活動・事業の総合的な情報発信ツール例)情報誌や通信の発行, 新聞の定期コラム, ラジオやTVによる情報提供番組」で、30 団体(17.8%)が希望しています。一方で、「市民活動団体の表彰制度」を望む団体はほとんどおらず、6 団体(3.6%)に留まりました。

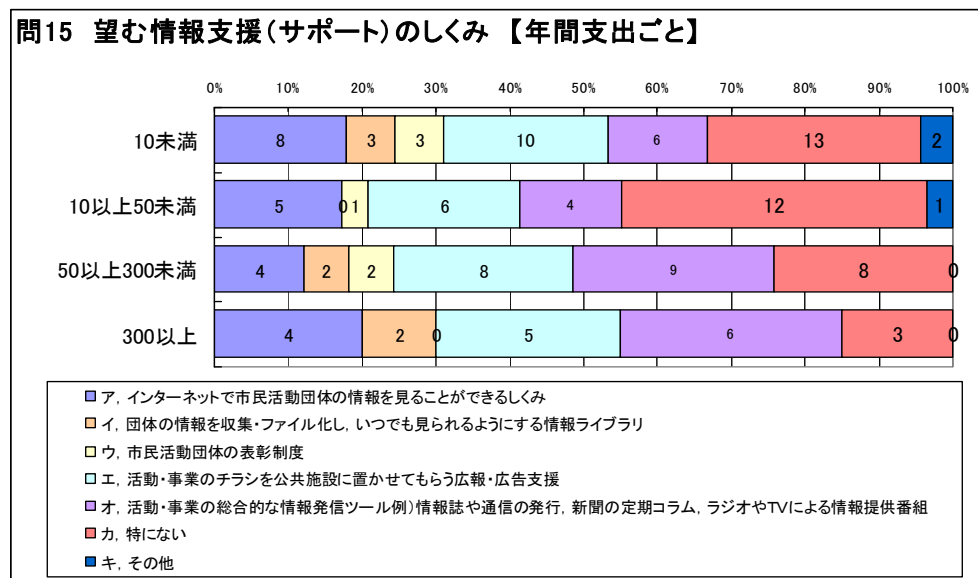


年間支出額ごとにみると、10万円未満の団体と10万円以上50万円未満の団体では、「特にない」が多く、ついで「インターネットで市民活動団体の情報を見ることができるしくみ」と「活動・事業のチラシを公共施設に置かせてもらう広報・広告支援」が多くなりました。「団体の情報を収集・ファイル化し、いつでも見られるようにする情報ライブラリ」に関しては既に倉敷市市民公益活動団体検索サイトがあります。

<http://sqd.city.kurashiki.okayama.jp/shiminkatudou/kensakutop.php>

10万円未満の団体と10万円以上50万円未満の団体へ十分な周知ができていない事がわかります。

一方で50万円以上300万円未満の団体と300万円以上の団体では「活動・事業の総合的な情報発信ツール例)情報誌や通信の発行、新聞の定期コラム、ラジオやTVによる情報提供番組」がもっとも多く、ついで「活動・事業のチラシを公共施設に置かせてもらう広報・広告支援」があげられています。なお、「特になし」を選ぶ団体は、ここでも年間事業規模が大きくなるごとに少なくなっています。

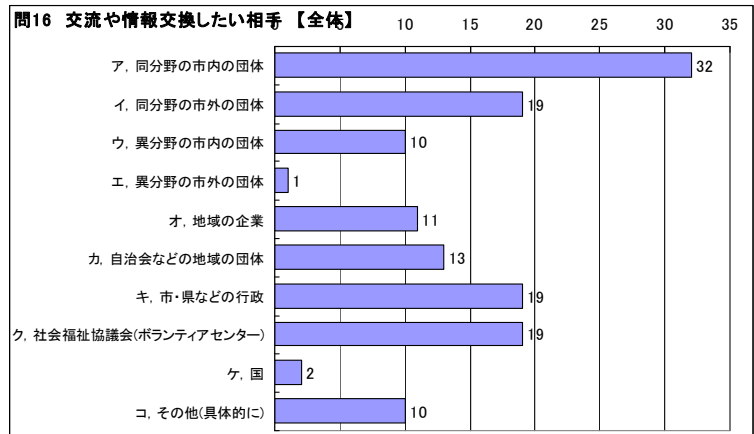


	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア, インターネットで市民活動団体の情報を見ることができるしくみ	8	5	4	4
イ, 団体の情報を収集・ファイル化し、いつでも見られるようにする情報ライブラリ	3	0	2	2
ウ, 市民活動団体の表彰制度	3	1	2	0
エ, 活動・事業のチラシを公共施設に置かせてもらう広報・広告支援	10	6	8	5
オ, 活動・事業の総合的な情報発信ツール例)情報誌や通信の発行、新聞の定期コラム、ラジオやTVによる情報提供番組	6	4	9	6
カ, 特にない	13	12	8	3
キ, その他	2	1	0	0
有効回答数	45	29	33	20

II-⑥ 交流・連携について

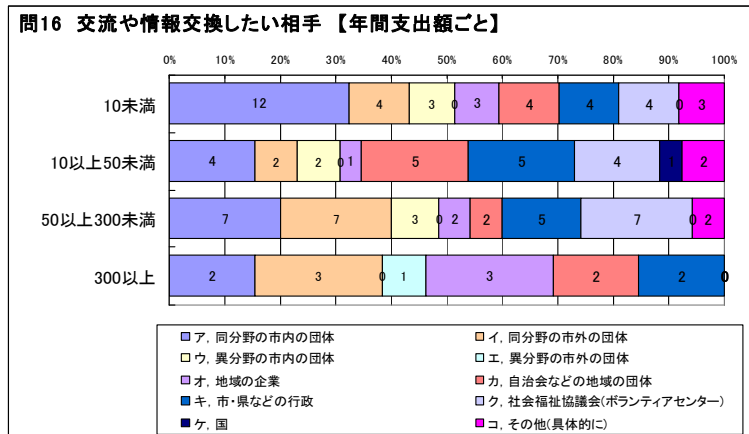
● 問16 交流や情報交換または事業・活動で連携したい相手とその内容 (複数回答、有効回答数77)

「同分野の団体」との交流希望が多く、「同分野の市内の団体」を希望する団体が 32 団体 (23.5%)ともっとも多く、ついで「同分野の市外の団体」が 19 団体(14%)となっています。また、行政機関や社会福祉協議会との連携や交流・意見交換を望む声も多く、「市・県などの行政」「社会福祉協議会」のいずれも 19 団体(14%)が希望しています。



年間支出額ごとにみると、10万円未満の団体では「同分野の市内の団体」がもっとも多く、次点は「同分野の市外の団体」と「自治体などの地域の団体」「市・県などの行政」「社会福祉協議会」の4つが同数となっています。10万円以上50万円未満の団体では「自治体などの地域の団体」「市・県などの行政」がもっとも多く、ついで「同分野の市内の団体」と「社会福祉協議会」になっています。50万円以上300万円未満の団体では、「同分野の市内の団体」「同分野の市外の団体」「社会福祉協議会」の3つが同数でした。

そして、300万円以上の団体では「同分野の市外の団体」と「地域の企業」が同数であり、それぞれの事業規模で異なる相手との交流や意見交換を望むバラバラの結果となりました。



	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア、同分野の市内の団体	12	4	7	2
イ、同分野の市外の団体	4	2	7	3
ウ、異分野の市内の団体	3	2	3	0
エ、異分野の市外の団体	0	0	0	1
オ、地域の企業	3	1	2	3
カ、自治会などの地域の団体	4	5	2	2
キ、市・県などの行政	4	5	5	2
ク、社会福祉協議会(ボランティアセンター)	4	4	7	0
ケ、国	0	1	0	0
コ、その他(具体的に)	3	2	2	0
有効回答数	37	26	35	13

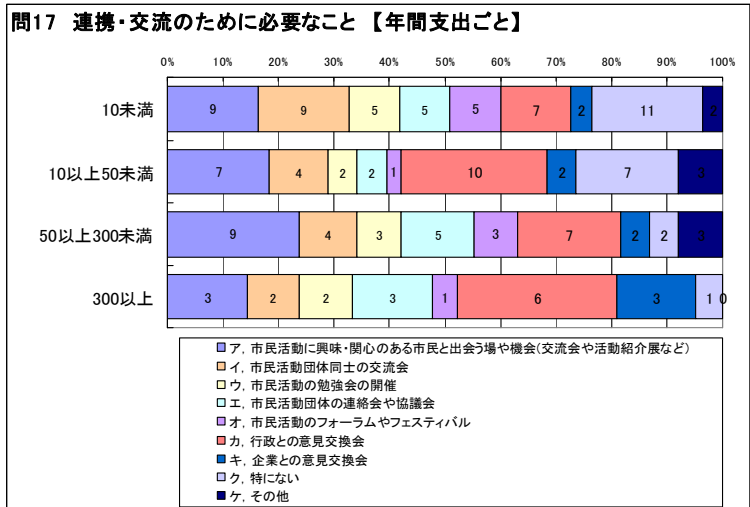
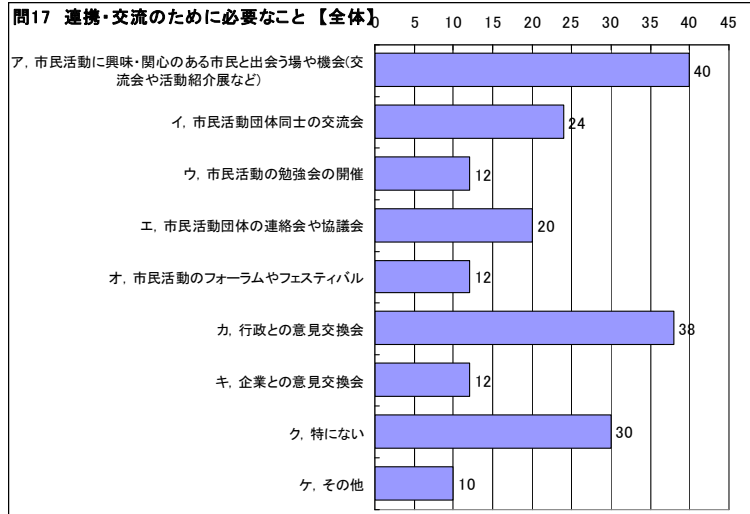
● 問17 交流・連携のために必要だと思うこと（複数回答、有効回答数198）

「市民活動に興味・関心のある市民と出会う場や機会」(40 団体・20.2%)、「行政との意見交換会」(38 団体・19.2%)が多くあげられました。行政との意見交換は「問 16」の回答を受けた結果ですが、市民と出会う場や機会は「問 9」の会員獲得の場につながるものと考えられます。

一方で、ここでも「特にない」の声も多く、30 団体(15.2%)になっています。次点としては、「市民活動団体同士の交流会」、「市民活動団体の連絡会や協議会」と続き、「問 16」の回答である「同分野の市内の団体」との交流を望む声を反映したものとなりました。

年間支出額ごとにみても、10 万円未満の団体、10 万円以上 50 万円未満の団体、50 万円以上 300 万円未満の団体では同じような傾向が見られ、「市民活動に興味・関心のある市民と出会う場や機会」と「行政との意見交換」が多く、ついで「市民活動団体同士の交流会」と全体傾向と同じになっています。

300 万円以上の団体では「市民活動に興味・関心のある市民と出会う場や機会」の回答が少なく、「行政との意見交換」が多くなっています。また、「企業との意見交換」も「市民活動団体同士の交流会」や「市民活動に興味・関心のある市民と出会う場や機会」と同数で回答されています。



	10 万円未満	10 万円以上 50 万円未満	50 万円以上 300 万円未満	300 万円以上
ア, 市民活動に興味・関心のある市民と出会う場や機会(交流会や活動紹介展など)	9	7	9	3
イ, 市民活動団体同士の交流会	9	4	4	2
ウ, 市民活動の勉強会の開催	5	2	3	2
エ, 市民活動団体の連絡会や協議会	5	2	5	3
オ, 市民活動のフォーラムやフェスティバル	5	1	3	1
カ, 行政との意見交換会	7	10	7	6
キ, 企業との意見交換会	2	2	2	3
ク, 特にない	11	7	2	1
ケ, その他	2	3	3	0
有効回答数	55	38	38	21

II-⑦ 今後身につけたいことについて

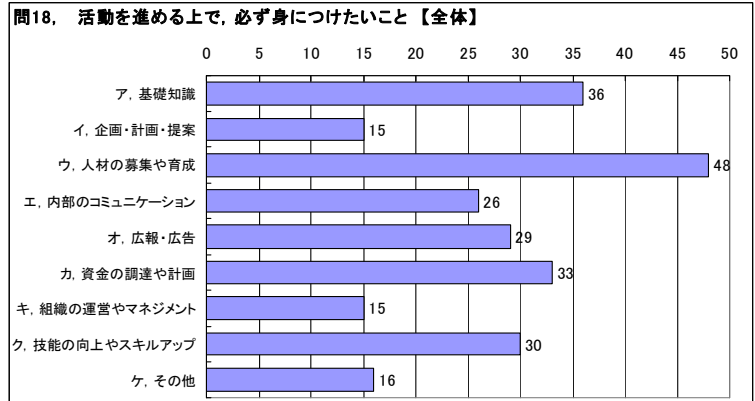
● 問18 必ず身につけたいこと（複数回答、有効回答数248）

「人材の募集や育成」の声がもっとも多く、48 団体(19.4%)であげられています。

「問 8」の不足している人材として「中核を担うスタッフ人材」があげられていたことからスタッフの育成に関心が高いことが分かります。

次点としては、「基礎知識」(36 団体・14.5%)や「資金の調達や計画」(33 団体・13.3%)、「技能の向上やスキルアップ」(30 団体・12.1%)など、団体が直面している課題解決を考える、個別のテーマに対してニーズが高い傾向にあります。

一方で「組織の運営やマネジメント」(15 団体・6%)へのニーズは低い状況です。



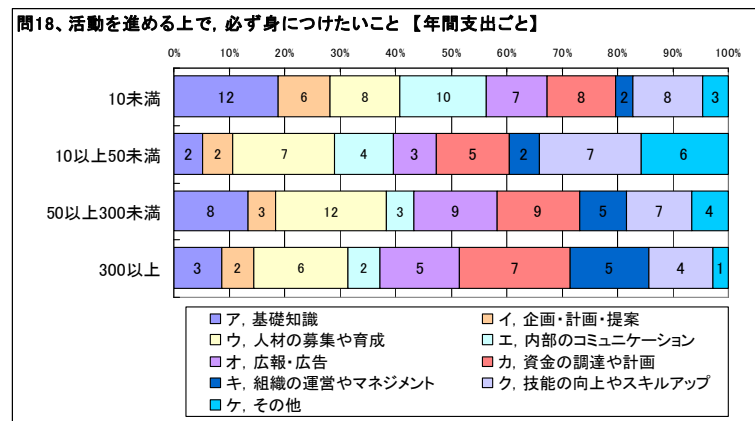
年間支出額ごとにみると、それぞれで少しずつ差のある結果となりました。

10 万円未満の団体では「基礎知識」が最も多く、ついで「内部のコミュニケーション」があげられています。

10 万円以上 50 万円未満の団体では「人材の募集や育成」と「技能の向上やスキルアップ」が同数で一番となっています。

50 万円以上 300 万円未満の団体では、「人材の募集や育成」がもっとも多く、ついで「広報・広告」と「資金の調達や計画」が同数となっています。

300 万円以上の団体では「資金の調達や計画」が一番多く、ついで「人材の募集や育成」となっています。

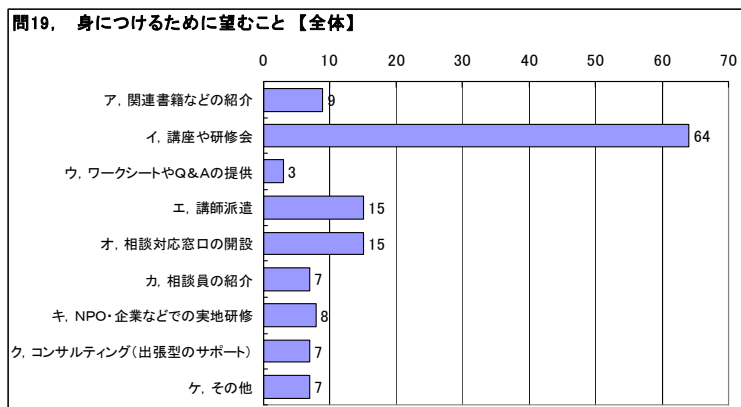


	10 万円未満	10 万円以上 50 万円未満	50 万円以上 300 万円未満	300 万円以上
ア, 基礎知識	12	2	8	3
イ, 企画・計画・提案	6	2	3	2
ウ, 人材の募集や育成	8	7	12	6
エ, 内部のコミュニケーション	10	4	3	2
オ, 広報・広告	7	3	9	5
カ, 資金の調達や計画	8	5	9	7
キ, 組織の運営やマネジメント	2	2	5	5
ク, 技能の向上やスキルアップ	8	7	7	4
ケ, その他	3	6	4	1
有効回答数	64	38	60	35

● 問19 身につけるために提供して欲しい方法（複数回答、有効回答数135）

「講座や研修会」を望む声が圧倒的に多く、ほぼ半数の64団体（47.4%）が希望しています。

その他「講師派遣」（15団体・11.1%）と「相談対応窓口の開設」（15団体・11.1%）が比較的多い回答でした。

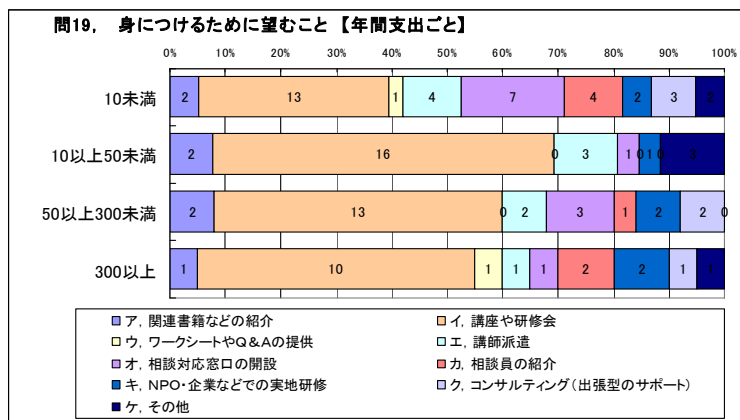


年間支出額ごとにみても、いずれも「講座や研修会」がもっとも多いものの、10万円未満の団体では「相談対応窓口の開設」が次点、そのつぎとして「講師派遣」と「相談員の紹介」があげられています。

10万円以上50万円未満の団体では、次点が「講師派遣」、そのつぎとして「関連書籍などの紹介」があげられています。

50万円以上300万円未満の団体では「相談対応窓口の開設」が次点、そのつぎには「関連書籍などの紹介」、「講師派遣」と同数で「NPO・企業などでの実地研修」があげられています。

300万円以上の団体では「相談員の紹介」と「NPO・企業などでの実地研修」が次点でした。

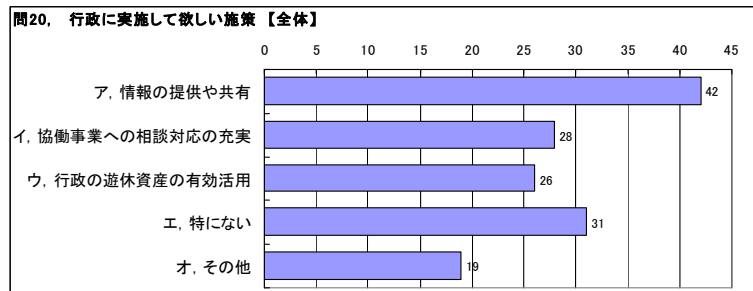


	10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上300万円未満	300万円以上
ア. 関連書籍などの紹介	2	2	2	1
イ. 講座や研修会	13	16	13	10
ウ. ワークシートやQ&Aの提供	1	0	0	1
エ. 講師派遣	4	3	2	1
オ. 相談対応窓口の開設	7	1	3	1
カ. 相談員の紹介	4	0	1	2
キ. NPO・企業などでの実地研修	2	1	2	2
ク. コンサルティング(出張型のサポート)	3	0	2	1
ケ. その他	2	3	0	1
有効回答数	38	26	25	20

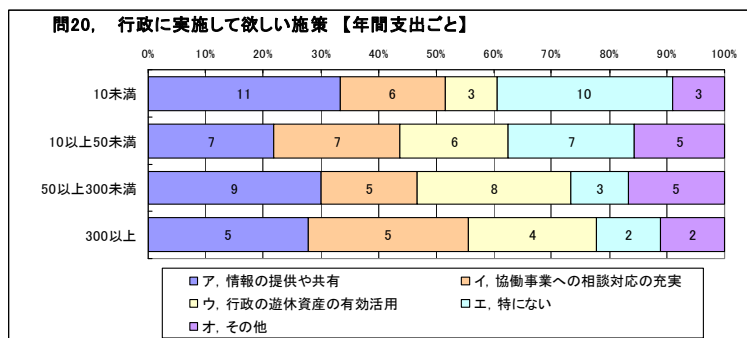
II-⑧ 市民活動促進のための行政の施策について

● 行政に実施して欲しい施策（複数回答、有効回答数146）

「情報の提供や共有」と回答する団体が 42 団体 (28.8%) ともっとも多く、「問14」のもっとも手に入りたい情報の結果を反映した状況となりました。一方で、「特にない」をあげる団体も 31 団体 (21.2%) あり、ここでも関心の差が現れる結果となりました。要望が少ないことは自立的な活動が出てきていると捉えることもできますが、一方で政策提言などを行い、公共サービスや公的な事業の変更に対するの関心度とも捉えることができ、その点はより詳細な調査が必要であると考えられます。



年間支出額ごとにみても、10 万円未満の団体と 10 万円以上 50 万円未満の団体では、「特にない」が「情報の提供や共有」とほぼ同数であげられています。次点以降を見てみると、「協働事業への相談対応の充実」がいずれでも多く、10 万円以上 50 万円未満の団体では、それと僅差で「行政の遊休資産の有効活用」があげられています。50 万円以上 300 万円未満の団体では、次点として「行政の遊休資産の有効活用」があげられており、300 万円以上の団体では「協働事業への相談対応の充実」があげられました。



	10 万円未満	10 万円以上 50 万円未満	50 万円以上 300 万円未満	300 万円以上
ア, 情報の提供や共有	11	7	9	5
イ, 協働事業への相談対応の充実	6	7	5	5
ウ, 行政の遊休資産の有効活用	3	6	8	4
エ, 特にない	10	7	3	2
オ, その他	3	5	5	2
有効回答数	33	32	30	18

おわりに

- **市民活動★パワーアップ研究会**

2009年8月から翌3月まで9回にわたり、市民活動★パワーアップ研究会を開催しました。これはNPO、学識経験者、近隣支援センター、県民局、市、等、多様な方々に参加いただき、市民活動の適切な発展についての調査・研究を行うために、くらしきパートナーシップ推進ひろばが主催し、倉敷市市民企画提案事業として市民活動推進課との協働によって実施した事業です。

- **市民活動の適切な発展のために**

「市民活動を進める上で困っている事や課題は何か？」

「市民活動が元気になるために、どんなしくみやしかけがあったらいいのか？」

具体的な質問にまとめるために、質問紙(アンケート用紙)の内容をメンバーによるワークショップを通して検討しました。その調査結果をまとめた物がこの報告書です。

- **関係者が集まり、一緒に考える場**

市民活動★パワーアップ研究会での検討は、これまで充分整理できていない(制度化されていない)これらの事について、情報を集め、交換・共有し、話し合う中から「どうやら、こういう事らしい」という所を探していくという時間のかかる作業でした。それは、当事者である団体や人、関係者が、分野やテーマを越えて、情報を持ち寄り、お互いの立場や意見を共有し、一緒に考える場でした。

- **対峙する構図ではなく、円卓会議**

これは「市民活動をしている当事者が欲しているモノやコトをお願いする人」と「それを聞く人」という対峙する構図ではありません。市民自らが参加(参画)し「公共的な問題＝市民活動がもっと元気になる」というテーマについて「どんな地域にしていけばいいのか？」について一緒に考えるための円卓会議の場なのです。

- **市民による政策形成プロセス**

これまで行政まかせにされがちだったこのようなプロセスそのものが、まさに公共的な事柄の意志決定(政策形成)に関わるプロセスなのです。そして、変革を求められているこの時代に必要とされるとても大切な取り組みであると考えます。

それが市民からの発案で、市との協働事業として行われた事に大きな意味を感じます。

- **これから**

市民活動★パワーアップ研究会はここで一旦幕を引きますが、ここで検討された事柄は、これからも検討が続けられていく必要があります。(もちろん、具体的な実践も！)

次年度の4月からは、この調査結果や市民活動★パワーアップ研究会での検討内容を元に「市民活動が元気になるために、どんな地域にしていけばいいのか？」についてのプランをまとめていく予定です。

くらしきパートナーシップ推進ひろば
代表 佐藤尚宏

市民活動★パワーアップ研究会 参加メンバー

団体メンバー

ぴあサポート・倉敷 東隆司

S P O x T (スポット) 石田篤史

おかやまコープクラブ 倉敷子どもの未来を考える会 片山みか

倉敷野鳥の会 笹田富夫

財団法人 水島地域環境再生財団 白神加奈子

特定非営利活動法人 子育て応援ナビぽっかぽか 田口陽子

特定非営利活動法人 倉敷町家トラスト 中村泰典

倉敷ボランティア協会 宮原光夫

倉敷市中心身障害児者父母の会 山浦勝利

特定非営利活動法人 スポーツライフ '91 天城 葭野浩道

公募委員

塩野貞夫

牧野陽子

宗澤真理

近隣支援センター

特定非営利活動法人 岡山NPOセンター 川上俊久

社団法人倉敷市社会福祉協議会 倉敷ボランティアセンター 山本知穂

笠岡市市民活動支援センター この指とまれ 森光康恵

学識経験者

岡山理科大学 総合情報学部 社会情報学科 教授 金川幸司

倉敷芸術科学大学 産業科学技術学部 起業経営学科 教授 後藤裕

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 准教授 李 永喜

行政関係者

倉敷市市民活動推進課

備中県民局協働推進室 (オブザーバー)

主催・事務局

くらしきパートナーシップ推進ひろば

市民活動★パワーアップ研究会 概略

アンケート調査	第1回	8/5 (水)	調査・研究で取り組む共通課題－研究会の枠組みを確認する & 市民活動の課題 ・自己紹介と研究会についての意見交換「研究会への期待と不安」 ・「まちづくり、市民活動をすすめる上で、何が課題か？どんなことに困っているか？」
	第2回	8/28 (金)	市民活動推進の課題と支援策－活動上の「困った」と解決への「しくみとしかけ」 ・W/S:「市民活動の構造を図にして整理してみよう」 ・W/S:「市民活動の課題を、構造図に書き込んでみよう」
	第3回	9/18 (金)	調査・研究概要の検討と仮説づくり－市民活動の課題解決への「しくみとしかけ」を考える ・W/S:「市民活動の課題を、構造図に書き込んでみよう」 ・W/S:仮説づくり「市民活動、〇〇〇だったら、もっと□□□なのに…」
	第4回	10/13 (火)	アンケート調査表の検討－市民活動団体の現状をつかみ、対策の根拠となる調査票 ・W/S:アンケート調査票(素案)の検討 ・W/S:市民公益活動団体事例集－ヒアリング調査について
	実施	12月～ 1月	市民活動団体へアンケート調査の実施 調査報告書(案)→第8回にて検討、第9回にて完成
ヒアリング調査	第5回	11/4 (水)	事例集について検討－社会の共感と信頼を生む情報提供ツールとして ・W/S:ヒアリング(聞き取り)調査の検討(ページ構成、ヒアリング先団体の推薦と決定) ・意見交換:ヒアリング調査について
	実施	}	第1回ヒアリング調査の実施 → 調査結果の提出
	第6回	12/14 (月)	ヒアリング報告とケーススタディ①－地域にとって、市民活動がなくてはならない訳 ・第1回ヒアリング調査の報告と記事の確認、意見交換 ・W/S:「地域にとって、市民活動がなくてはならない訳」 ・ヒアリング調査団体の決定と調整
	実施	}	第2回ヒアリング調査の実施 → 調査結果の提出
	第7回	1/25 (月)	ヒアリング報告とケーススタディ②－市民活動の適切な発展について ・活動事例記事の確認ワーク ・市民活動の適切な発展について 「市民活動の適切な発展について」「市民活動団体が期待にこたえきれない理由」 「市民活動が適切に発展する地域の条件」
成果確認	第8回	2/15 (月)	成果物の確認と改善提案 ①市民活動パワーアップのためのアンケート調査結果報告書(案) ②市民公益活動団体事例集－ヒアリング調査結果報告書(案)
	第9回	3月上	成果物の最終確認 ①市民活動パワーアップのためのアンケート調査結果報告書(案) ②市民公益活動団体事例集－ヒアリング調査結果報告書(案) 研究会の全体をふりかえるワークショップ－今後の市民公益活動の適切な発展のために理想の姿、現実の姿、問題解決行動

その他、記述欄の回答

- 問5-1、活動や打合せなどで場所（会議室など）が必要な時、どこで行っていますか。

○倉敷北児童センター、○会施設、○倉敷市障がい者福祉協会連合会事務所、○倉敷商工会議所、○倉敷ユースホテル、○向山公園、○所在地事務所、○児島公民館、○ホテル・セントイン倉敷、○児島支所(市役所)、○倉敷市保健所、○事務所、○倉敷市東町、○真備健康福祉会館、○真備児童館、○プラザ倉敷ボランティアセンター、○倉敷市水島会館、○美観地区内新溪園、○きらめきプラザ 2F、○農協(中庄)会議室、○掃除道具置き場(アイスラインの倉庫)、○事務所、○新屋敷集会所、○くらしき健康福祉プラザ 3F 和室、○倉敷保健所会議室またはくらしき健康福祉プラザ、○文化交流会館、○くらしき健康福祉プラザ内、○水島公民館、○倉敷労働会館、○くらしき健康福祉プラザ、○グループホーム、児童館、図書館、○倉敷ボランティアセンター、○老人福祉センターまきび荘、○ボランティアセンター関連の部屋、○真備児童館、○真備公民館/分館、○くらしき健康福祉プラザ3階、○福田公民館、○イオンモール倉敷、○くらしきシティプラザ西ビル8階、○南公民館、○NPO 会館、○ライフパーク倉敷、○しげい病院会議室、○旭川荘

- 問6、あなたの団体が《場所・施設・機材》で困っていることに○印をつけてください。(複数回答可)

○草・芝刈り機、○倉敷作業所の資源回収の為の倉庫(倉敷総合福祉会館内に欲しい)、○クラブハウスが必要、○小さい子供を連れてるので活動内容に制限がある、○困っていない、○利用者が便器を汚すことが多く、トイレの水洗化をしたいが予算的に困難、○本来/?? 的には、今の大人達を?? にした 24 時間体制の為の居住地が欲しい(料理=食育、教育、悩み相談、相談、子供科学相談、DV 相談などなど)→(少し公私混同かも知れない。)、○寄付金などの雑収入がない為、ガイド以外の活動費(旅費・昼食費など)自己負担などでつらい、○相談窓口、○教材(テキスト)の保管場所がないので、持ち運ぶのに非常に重くて不便を感じています、○環境省は現在パークボランティアに諸費用を拠出していないので、物品や機材が不足している、○地区行事の物品の保管場所、○各学区で活動しているので、公民館の調理室の日程の確保ができない時がある。(小学校区に公民館がないので調理室の不足)、各小学校区に公民館を設置してほしい、○専門の指導員が雇いたい但し給与の確保が難しい。○NPO 法人としての事業・会計事務が複雑で専門のスタッフがほしいが給与等確保できず困っている、○行政支援が無い事(外出支援活動は低下で行っており、不足は、身障連合会が負担している)、○近所に公民館のない親子クラブがあり、クラブ活動の場所、庭のある活動場所、運営に必要な資金、○連携への不理解、○廃品回収を仕事として障がい者の人が頑張っておりますが、その置き場所がなく、やむをえず、公共の一部を使わせてもらっています。種分けして入れる倉庫かプレハブが欲しいです。また、廃品を運ぶ車がなく、運転ボランティアもなく、厳しい中で働いています、○冒険遊び場で使用する廃材・道具の保管場所が手狭になっているので、活動場所(酒津公園)に保管場所を増やしたいが、市の許可がおりない。○年中行事に使用する用具(歌集、?? の用具:ラジカセ、打楽器などロッカーに入りきれず個人の車のトランクを使用している)、○録音出来る場所、特にないが障がい者支援センターが私達が参加した初めのボランティア講座で、ボランティア団体を立ち上げますと言われ、残った 7 人で出発しますので、支援センターには受付ガイドの依頼などはセンターの職員さんをお願いしてあり、郵便物もセンターに届きます、○1. おもちゃの修理に必要な部品の入手。2. おもちゃドクター(会員)スキルアップ。○録音機がなくなり、テープ図書からデジタイズ図書になりパソコンが必要になりました。○福祉車両が老朽化にて利用時に安全を確保出来ない。○大学から施設(旭川荘)まで遠く、交通手

段に困っている

- 問7, 《場所・施設・機材》について, あなたの団体が欲しいものは何ですか。当てはまるものに○印をつけてください。(3つ以内)

○草刈・芝刈り機、○デジタルカメラ、○二輪車、深型、○健康づくりイベント等に使用する医療測定機(骨密度計や足裏測定器)、○プロジェクター、○車両、○スピーカーやマイク、CD・カセットデッキ、○情報誌印刷機・用紙折り機、○活動場所にロッカーが無く、他のグループと共同なので、その都度、茶道具その他を貸しロッカー(狭い)から運んでいる、○DR-1、プレクストーク、○運搬車輛、トラック

- 問8, あなたの団体で, 不足している人材について当てはまるものに○印をつけてください。(複数回答可)

○広報担当者 渉外担当者、○会員の中でも実動の出来る人が片寄り、○市職員以外なら受入れている、○研修移動時の交通手段に困る。そうしたボランティアが欲しい。○一般市民が、見たり知ったりしても、見ざる/聞かざる/言わざる/せざる、という無関心が一番困る。○会員の高齢化が進み、力仕事が必要な時が大変。若い会員が欲しい。○パークボランティアを募集しています。○賛同して協働して下さる方があれば嬉しいのですが、それはないです。今は独り勝手ボランティアです。○真備婦人協議会には市の職員の事務局がいなくて、全部自分達がして来た。しかし、その人達も高齢で脱退するので是非事務局を市の補佐してもらわないと運営が難しい。○栄養士、○児童センター開館 22 年、ボランティア人材、スタッフの人材が高齢になり若手の人材が不足がち、○メンバーが多くなれば希望もてるが、今は少ない。○イラストレーター、○被害者に直接かかわる人、○対 役所営業マン、○未来を支えて頂ける若い後継者、○ボランティアとして参加し、又参動してくれる人材が不足している。○女性のボランティア、○ボランティアを積極的にしてくれる人が欲しいです。○パソコンが出来る人、朗読の出来る人○後継者がいない

- 問9, あなたの団体が望む人材支援(サポート)のしくみは何ですか。当てはまるものに○印をつけてください。(3つ以内)

○資格取得研修への支援(例:環境カウンセラー等)○特になし○会員は、自然に育つしかないと思う。○別にありません○書類の書き方の指導(申請書提出等)○託児ボランティア○特になし○今の会員も高齢化し、若い人が入会しないので会員は減少の一途をたどる。会員獲得の場や機会を提供して欲しい。○市の栄養士の増員を望む○現状で満足なので、特に望ことはない。○乳がん体験者で術後2年以上、心身健全な方で、患者のサポートが出来る方○文化活動なので人脈や公民館の団体を通じての確保に努めている。○実際活動できる人○ロコミで友人を誘うが最適かな?○保健所より病院の看護婦の派遣とか福祉関係の学生の参 があり、障がい者は若い学生、健常者との交流を期待している。○倉敷市の福祉関連の方々との話し合い、協力などが重要かと思う。○特になし○ボランティアをする人、受ける人もまだいると思いますが、受ける人などは増えていない。○お話サロン:異なった障がい者、ボランティア、一般の人の理解者と、参加者が増える事。○子供達が友達を(仲間)さそって来ています。○真備町ボランティア連絡協議会等がありますので、そちらで助かっています。

- 問 10, あなたの団体が資金面で困っていることは何ですか。当てはまるものに○印をつけてください。(複数回答可)

○公金支援は一切受入れない○人件費が不足する○年間の運営費の他にフェスタなどでバザーをしている。○今のところ、年金の自己資金で、前途の用途に充てている。でも時々不足する。○一学区 3 万円プラス住民数の割合なので今は寄付がないとマイナスです。○文化祭等でコーヒー喫茶やうどんを売って資金の足しにしていたが、その文化祭やイベントも少なくなり困っている。○年々物が値上がりしており、努力はしているが大変である。また寄付

金も減っており事業の資金も不足気味である。○市の補助金での作業所運営の中での指導員の給与の確保。・所員への賃金支払○倉敷市男女共同参画課の委託事業以外に学習したい講師依頼が出来ない。○運転資金が不足○基本的にはボランティア、草刈機燃費等々の資金援助があれば助かる、今後の課題:現在各自会員負担○文化連盟だけでなく、地域の団体にも補助(文化振興課の仕事)願いたい。(児島・玉島・真備・船穂)○会員の減少が激しく会費の回収が困難となっている○現在市に予算を計上してもらっているが、将来独り立ち出来るための予算だと言われている。継続的な事業をしていく為には、継続的な資金の支援が必要○障がい者は働きたくても働けない為、収入が無く苦しい生活をしている。社の助成金賜っている。○資金が不足した時は会員より徴収する。○キ、事業規模が小さいので資金は全て会員(おもちゃドクター)がしているが、ボランティア保険に加入するお金は行政から出して欲しい。○1回にお茶代100円でスタート、以降の事は具体的にこれからです。○会員が自己負担で着物や小道具を必要に応じて作っている。○市の助成金を頂いているので特にない。○H25年に25周年記念事業施行の為の資金○電車(JR)交通費

● **問 11, あなたの団体が望む資金支援(サポート)のしくみは何ですか。当てはまるものに○印をつけてください。(3つ以内)**

○倉敷市のスポーツ振興の基本理念○行政からの補助金と会費○会費、金欠による○市議員と会議員とは一体何ですか?自らアイデアを出し、提案し、に するものなのに…。○旧町からの助成金が多かったが、合併後は3年間で0となり、会費だけで協会運営しなければなりません。会費の値上げを考えています。○過去に於いて、活動資金助成の募集に応募し助成を受けた。○町(地域)にしっかりした市の意志をしめす物であれば、小額でも支えに成る。○問10で答えたように合併前は各市町村から援助があったが合併後はなくなった。○障がい者自身が自助努力して資金をつくる努力をしています。そして不足部分を助成金に頼っています。色々な助成金が受けられる事を望みます。(継続的なもの)○会員は毎月参加時、1人100円負担、お茶代として○エ、お金のかからないような事業運営の仕組みが必要。他の団体では、社協より助成金を貰って、会費、昼食費、懇親会費などに使っているのを耳にした事がある。助成金は血税である事を認識しなければならない。○スタートしたばかりなので、今後の活動のあり方を具体化していく時には考えて行く。○市社協からの助成金で出来る事をやっていますので特にありません。○会費・賛助会費の収入増額を望む。(患者・家族・賛助会員の新たな入会者が増加する事)

● **問12, あなたの団体が情報公開しているものに○印をつけてください。(複数回答可)**

○ホームページ○会員のみ公開とHP情報○ゆうあいセンターを通して○ウ、会の機関誌○年1回の総会の時に、ア・ウ・エ・オ・カは、理事を通じて会員には開示しているが情報公開と言う積極的なものではありません。○年1回「パークボランティア会員だより」を発行し、上記ア、ウ、オ、エを記載している。○年間活動報告を提出している。○ウ、エ、オ、カについて、会員には総合で公開○不特定多数の人には上記、会員には全て公開○オも○か判断できない○活動報告、参加者の声○冒険遊び場開催日のお知らせ、冒険遊び場の出来事、活動写真○支援して下さる団体に報告している。○ホームページで真備おもちゃ病院の情報を発信しています。ホームページを見て、倉敷市内はもとより、岡山市、津山市の方からおもちゃの修理に来られます。○活動を始めて、H21年7月より、時間的に短いため、入会のお知らせ位です。○広報紙で会の活動を紹介している。○倉敷市社会福祉協議会のHPに公開している登録用紙の内容○ア、Web イ、Web ウ、会員に限り エ、会員に限り オ、Web ケ、制約をつけて○大学HPのサークル紹介欄

● **★問 13, あなたの団体が情報発信に活用しているものは何ですか。当てはまるものに○印をつけてください。(複数回答可)**

○体育館内の掲示板○本町倉敷公民館から各公民館へ年間講義予定表(チラシ)を配布 サ、のびのびキャン

パス岡山、岡山県生涯学習大学連携講座○岡山のきらめきプラザ？○キ、新聞・ラジオ サ、行政の広報・その他○
 幼児健診、市所窓口○新聞を作って年 1 回情報を流してたが、資金もなくなり、合併により配布方法も難しくなり取り
 やめた。○病院等からの紹介○伝建かわら版○倉敷不登校ネットワークの HP とどんぐり通信○地域組織だよりを全
 会員に配布、町内の掲示板に掲示○地域組織だよりを全会員に配布、掲示○新聞記者に相談スペースをさいて
 もらう。○協会誌「海橋」を発行し、会員以外に行政関係部署、図書館、マスコミ等に送付○当協会発行の情報誌○
 会員に活動の予定表配布。サロン活動の PR に保健所、ボランティアセンターにチラシを置く。○朗読発表会を開催
 する時のみ○市の広報や社会福祉協議会の情報誌などに宣伝してもらっています。○「広報くらしき」へおもちや病
 院の開院案内記事を毎月記載して欲しい。広報を見て来院される保護者が結構多いが、最近の広報は、企業の広
 告は増えているが、ボランティア活動の情報は減少している様に思われる。○大学 HP のサークル紹介欄

● **問 14、あなたの団体がもっと手に入れたい情報は何ですか。当てはまるものに○印をつ
 けてください。(複数回答可)**

○現地情報活動に国内情報は不要○ア、助成金(内容に依る)ク、行政の情報はパークボランティア活動に役立
 つ。○独りボランティアを継続して(5年以上)いる人と話してみたいです。○同じレベルの団体の問題が知りたい。○
 全国的ボランティア情報○障がい者が収入を得られる団体○利用者(視覚障がい者)の希望、要望○倉敷の助成金
 も申請していますが、今年 3 年目で終わりで来年はどうするか考えないといけない。○真備町ボランティア連絡協議
 会より

● **問 15、あなたの団体が望む情報支援(サポート)のしくみは何ですか。当てはまるものに
 ○印をつけてください。(3つ以内)**

○ア、市がリンク拒否=市政批判○企画別に必要に応じて公開している○行政から市民向け啓発運動○利用者
 (視覚障がい者)の方々へ色々なボランティア活動を知って頂き、必要な場合は利用して頂く事が出来る様にして欲
 しい。○真備町ボランティア連絡協議会に入っていますので、こちらの方で情報は交換しています。

● **★問 16、あなたの団体が、交流や情報交換(意見交換)をしたい相手があれば、当て
 はまるものに○印をつけてください。(それぞれ3つ以内)**

○ア、作業品目、情報交換 イ、交流会、情報交換○オ、環境教育 カ、省エネ・ゴミ○現状以上には出来ない○
 他の NGO○倉敷市立短大○すでに必要な団体とは連携している○交通関係のボランティアですので、交通関係と
 は今の所、県、市各学区との交流はあり、組織がしっかりしていると思います。○病院他 情報の交換○文化財を
 大切に町づくりを考えている地区○特にない○学校(中・高)○特にない○ア、日本語を教える活動に関して

● **★問 16、あなたの団体が、事業・活動で連携をしたい相手があれば、当てはまるものに
 ○印をつけてください。(それぞれ3つ以内)また、連携したい事業・活動の概略を書いて
 ください。**

○キ いきいきフェスティバル、情報収集○オ コミュニティービジネスの協働体制○ア 商工会議所、JC○ウ 障害
 者とのスポーツ交流事業○エ 環境活動○コ 心の入った NGO との交流中です○イ 店舗の経営(特に飲食店)との
 交流○ア 福祉有償運送団体○カ 但し市民監視体制になかで困る。○ア 意見・状況交換会など○コ 人形劇をさ
 れるグループと交流したい！！○ウ 情報交換○ア 大会等の共同実施○ア 美術、文芸、芸能、それぞれの交流会
 ○ア 美しい街づくり、花育(観光の街に雑草と道のゴミは恥かしい)○ウ 食育を推進している団体との交流○オ
 就労・ジョブコーチ・実 の受入れ他○イ 農林水産業での男女共同参画について○キ 乳がん検診の啓発活動&
 患者支援団体の紹介等○ア 地域環境団体 イ)地域道路公園等々の清掃○ア エリアによる支援体制の連携と人

材の共有○キ 出前講座とかで、もっと活用して欲しい○ア 街頭清掃○ア 医療機関との情報交換

カ 作品展全般○キ 活動支援(活動資金支援・人材発掘の為の講座) ○ア それぞれに抱えている課題をテーマに研修○ウ 里山を活用したいと思っているグループ(学校、子供会、親の会など)

NA どのように活動しているか知りたいです○イ 県北、新見市、高梁市におもちゃの病院が無いので、おもちゃの病院が立ち上がる手助け(応援)をしたいが手段が見つからない。吉備おもちゃの病院、浅口おもちゃ病院は先方から真備おもちゃ病院へ設立について支援要請があり応援した。○オ 中高年の健康・生きがいづくり○イ 岡山県観光連盟、岡山県ボランティアガイド連絡会○キ 難病及び障がいに対する制度の学習等○カ 日常的な付き合いを○カ 子育て支援団体○キ 夜間照明施設について接触拒否されている○キ バイオマス○カ 特に高齢者、独居老人の親睦団体○イ 福祉有償運送団体○キ 但し市民監視体制になかで困る。○キ 事業の指導○イ 大会等の共同実施○イ 美術、文芸、芸能、それぞれの交流会○カ ボランティア他○オ 職場における男女共同参画の意識について○イ ロ)地域安心安全○イ エリアによる支援体制の連携と人材の共有○ク 出前講座とかで、もっと活用して欲しい○イ 街頭清掃○キ 作品展全般○ク 活動支援(活動資金支援・人材発掘の為の講座) ○イ 他の施設の活動内容について知り、活動の幅を広げる。○キ 福祉事業など○カ 視覚障がい者がどのように暮らしているか知りたい。○キ 中高年の健康・生きがいづくり○ウ 商工会議所、倉敷コンベンションビューロー○ク 交流会やバス旅行等実際に動いてくれるボランティアの確保○キ 偏見除去の取り組み○キ 福祉課○ク 県社協とのコラボ事業は 20 年間継続しているが、市社協はない○ク 自立支援 etc○ク 但し市民監視体制になかで困る。○ク ボランティアや活動の場の提供○ウ ハ)地域史跡の顕彰○オ 障がい者雇用の受け入れ先○コ 講師派遣○ウ 異分野の人の出会い相手の立場を理解し、サロン、良い事はサロンに生かす。○ク 出前講座をもう少し多く○ク 中高年の健康・生きがいづくり○キ 岡山県、倉敷市

● **問 17, あなたの団体が交流や連携を進めるために必要だと思うことは何ですか。当てはまるものに○印をつけてください。(3つ以内)**

○地元の人と日常的に接する事○当団体は毎日活動しており、時間的調整が困難(魅力があれば出て行けるが・・・)○倉敷市政以外なら 交流は実施中○ア, 市民との出会いの場(例:かつて、市の展示コーナーなどで、パークボランティア活動の一環として写真展(鷲羽山・パークボランティア活動状況)を開催し好評を得たので、またの機会にやりたい。○気楽な座談会形式であれば 多くの事が話し合えると思う。○ボランティア活動とは?とかの研修会に、なぜ倉敷ボランティア協会と連携が取れないのか?○興味ある方たちとの交流、一般のかたへの啓蒙○同じ活動をしている団体で、継続的な活動している成功例のある団体との意見交換○障がい者(精神)について障がい者の生の声を聴いて頂き理解を得心のバリアフリーを取り除いて人として当たり前の生活が出来る様に活動を進めていきたい。○利用者(視覚障がい者)と行政と同分野の団体の3者が交流する事によって事業を進める。○視覚障がい者、どのくらいいるのか、外出するのに不便はないのか、市民活動に関心のある人と出会う場。

● **問 18, あなたの団体が活動を進める上で、必ず身につけたいことは何ですか。次のア～キから選んで○印をつけてください。(複数回答可)**

○同種の団体との交流・協議の場(試合の場は不要)○ア, 自然に関するもの○環境コミュニケーション ・思考フロー(バックキャストigg etc) ・人間力○実動できる会員がもう少しいる方がよい○ア, 基礎知識:環境省主催で年1回研修会を開催している。ウ, 私達は風光明媚な海や山が直ぐそばにあ○瀬戸内海国立公園の直ぐそばに住んでいます。あなたも自然との触れ合いを求めて私達の仲間に入ってみませんか。エ, ボランティアは自発性、公共性、無報酬の三原則です。私達パークボランティアは協力し合い、自己改革の場として感性を養い、それを人々に伝え、次の世代に受け継いでもらいたいと願っています。○別にありません○・子どもの育成の為の学習では専門的な講習会も必要である事。・全国的な子ども会活動の情報を収集する為に参加し研修等々。○カ, 補助金の制度 ケ, こ

の種のアンケートが(県市、NPO 団体)多くありますが、目に見えた が一向に現れないのが不足 です。○・岡山県精神保健福祉センターのメンタルヘルスボランティア 講座が中止となり、修了生の友の会が昨年 11 月より 6 回の講座と 2 回の実習が始まった。各人に学びの差はあるがこれまでの経験から十分基礎知識が得られてないように思う。この点十分考慮してもらいたいし、後のフォローアップも大事なこと。・運営資金の調達に苦慮している。(助成金・補助金についての情報が知りたい)○特になし(個人によって違ってくると思うので)○自主財源の作り方○助成金や補助金の活用方法、自主財源の作り方など○県・真備町ボランティア連絡協議会で交流会や講演会に参加出来ますので色々と勉強させて頂いています。○特にない。県・真備町のボランティア連絡協議会等で交流や講演会があり参加出来ますので色々と勉強の機会がえられています。○真備町・県ボランティア連絡協議会での講演交流がありますので色々な事を学ぶ機会があります。○県・真備町ボランティア連絡協議会の会員の為、色々な情報や講演会等で色々な勉強をする機会がありますので特にはありません。○ア、美観地区歴史、名勝の知識。ウ、勉強会。○難病患者としての生き方、療養生活等を未入会の人にもっと知ってもらいたい。

● **問 19, 問 18 のことを身につけるために何を望みますか。当てはまるものに○印をつけてください。(3つまで回答可)**

○資格、実施研修、心理カウンセラーとの交流 etc○特にない○?○特になし○保健所・ボランティアセンターには日次ご支援いただいている。市に対して、より近い存在になるように心掛けたい。○会員間のコミュニケーション○自主財源の作り方、補助金、助成金の活動方法など勉強が出来れば。○エ、日本おもちゃ病院協会が初級、中級、上級の講座を開いているが、場所が東京で受講に費用がかかるので無理がある。福山市では行政が協会へ要請し、昨年、初級、中級のおもちゃドクター養成講座を開講したと聞いている。倉敷市では、一昨年初級の講座が開講され 40 名以上受講したが、費用は協会が厚労省の外部団体からの助成金で賄った。

● **問 20, 行政に実施して欲しい施策に○印をつけてください。(複数回答可)**

○演整備に必要な機材○障がい福祉の分野は、いつまでたっても行政の重要課題としての位置付けがされていません。大胆な予算措置とマンパワーの投入、これによって、初めて誰でも安心して暮らせるまちづくりに繋がります。(価値観を変えないと・・・)と言いたいところですが、私達は自分達で汗を流していきます。当事者としての立ち位置で踏ん張ります。行政の方も自らの立ち位置でプロとしてお仕事して下さい。○天城小学校グラウンドへの夜間照明施設を要望し、3 年が経過しようとしているが、市長をはじめ担当部署よりの明確な回答が示されない。[市政への不信感が学区全体に醸成されている] クラブ HP のリンク拒否の原因○アンケートだけで現状を把握するのではなくて、よく聴き、よく見る事をおすすめします。現状把握がしっかりとできないと施策を間違えます。See-Think(現状把握-解析・分析→考察)を十分果たして下さい。○全く望んでいない。支援は必要としません。それよりか邪魔をしないで欲しい。現在市職員に邪魔されて困っている。倉敷市には全く期待していない。○少子化対策進んでいない。育児休業(男性)とれない。県立児童館へ閉館では少子化対策にはならない。○グーグルのSV(ストリート ビュー)禁止。○1. 講演会をする時等の講師の紹介や依頼 2. 研修観察する時等の行き場所の情報提供○「市民事業仕分け」の公募、・内部告発者保護条例、・市民による「行政評議委員会」の設置○子ども達が地域の活動を行うにあたって、場所の不足、安全面、等々、確保が必要であり、また地域の活性化の為には子ども達が地域事業に参加する事や、指導者、協力者が必要であり、その組織作りの一つとしても子ども会が重要である事を理解する事が大切であると思っている。行政に対して、思っ行ってほしいのは、地域での活動に対して、子どもの活動に予算化してもらいたい。指導者、育成会の活動、講習(全国子ども会研修会・中国四国研修会)等の参加に対して個人負担もある事など理解してもらいたいし、一部行政で見てもらっても良いのではないかと思っている。○行政から強力な啓発運動、環境問題近県市町村に対し大変劣る。各活動の中で どの理由で効果を上げた、メンバーが増えた 又損った、どんなトラブルがあつた?等々の情報。○立ち上げ時などの活動初期や新規事業などに対する資金援助や障がい者(特に

手帳が持てない発達障がいの人たち)に対する補助などの制度の制定。○倉敷ボランティア協会をもっと活用して欲しい。安価な労働力としてだけで無く、ボランティア養成講とか中高年の生きがい教室、災害ボランティア体験講話とかで市外の団体をp利用しないで声をかけて欲しい。○市の職員は、市が薦めているボランティア活動の拡大、普及に対して、どのように協力、参加しているのでしょうか。市の職員が、年間3回でもボランティア活動に参加するなど制度を作るべきだと思います。○継続的な活動支援。資金面・活動団体の情報発信・人材を発掘できる取組み。○〇行政に対して、菜の花サロンの活動状況を理解して頂く為に障がい者の声を聴いて頂く機会を設けて欲しい。○また気軽に相談できる窓口を設けて欲しい。

行政に実施して欲しい施策と情報の提供や協働事業への相談対応の充実ではないかと思います。私共では行政の資産の有効活動はないです。○団体の活動にかかわる経費は、会費などで集めず、その都度各個人から集めたり、通信費など持ちだしながらやっている。今のところ、それで十分やって行けるのだが、できれば、市の施設など使用する場合、無料にして頂けるとありがたいと思っている。

● 問21 自由記述

○素人なので、ちゃんとした知識がない上での発言になりますが、やはりある程度、行政が監督する事が大事だと思います。市民団体の名を借りた別の目的の為に集団がないとも限らないので・・・。(志の高い方々が迷惑を被る場合もあるでしょう。)お互いに協力し合うという姿勢があれば有意義な活動も増やせるはず。○地域よりの要望・提言に真摯に対応する市政運営○1. 行政のリーダーシップ 2. リーダーとしての力量アップ 3. NPO リーダーの力量アップ 4. 人間力の向上 5. 倫理感の向上 6. 教養、品格の向上 以上、行政、NPO の双方にとって極めて大事な要件である。信頼性を生み出す事が重要な要素である。○II③～⑧まではどうも NPO 基準の設問で回答は出来ない。○同様な国際交流関係団体が増えて来ていると思います、それらが倉敷市国際交流協会の傘下でそれぞれ活動している。それぞれ自主的な活動を活かしつつ倉敷市国際交流協会と共同で出来ている活動で手一杯です。・市役所内に国際交流課が設けられて後は、それまでの私共の仕事、多くは の方へ移り、カンザシティ側も、私ども方も世代交代の波が来ているようです。○記入していない項目については今の段階では何とも言えない状況です。申し訳ありませんが返答無しという事でお願い致します。私達の活動は障がい者の福祉作業所という事で質問に対して完璧に合う答えがない場合もあり、的外れの回答をしているところもあるかもしれませんがご了承ください。○倉敷市の市民活動への対応について、自立して事業を行っている NPO 等の市民活動については、活動内容をよく精査して、公共性や市民利便性を正しく評価できる倉敷市でなくてはならない。また、生まれかけの市民活動団体の活動を阻害してしまう事にならないように配慮が必要ではと思われまます。○『自由には と義務が伴う』この事は平和ボケした今、特に念頭に入れておく事だと思う。1)JR 倉敷駅周辺ではよく分かるが、楽器/大声に？気狂じみた、悪魔の？？にも見える演奏？？は、ゴミのポイ捨て、一般通行人、？？人々の？？では？？ない。JR の注意書きポスターすら？？？？いる。市条例でも？？り、？？手入れの仕様が無い。○私達は、地元で活動しているアーティストの発表の場を用意して、地域の人に紹介したい、地域のスーパースターを生み出したい、という思いからイベントを企画してきました。以前、駅前広場で「踊って騒いで児島でナイト」を開催して大盛況でした。第 2 弾として今回の秋イベントでは、「アーティストックな秋だから・・・」と題して開催しました。その際、児島民話通りにある既存の施設を利用しました。そこは通りに沿ってテントや水道・電気施設が備わったイベント用に作られた場所です。しかしこの通りは今まで殆ど使用された事はありませんでした。今回は地域のまちおこしとしてそこを利用する事に決めました。しかしここで道路使用許可書申請時にかかる使用料の問題が生じました。商工会議所が主催するイベントで以前利用した時は、一括での申請 2,300 円の申請料ですんだのですが、私達市民グループが主催した時は、一区画ごとに申請せられ 2,300 円×27=62,100 円支払う事になりました。ここで幾つかの提案をさせてもらいます。まずテント部分は道路ではないはずですので、道路使用許可書は妥当なのでしょうか。もう一つ、市民グループと公共の中でこれだけ大きな金額の差が出るというのは納得できません。これだけの道路使用許可の金額を払って警察が何か整理をしてく

れたとかいう事ありませんでした。利益を追求しない私達のイベントでは納得できません。もし公的な力添えによって商工会議所並みの金額で使用できるのであれば、お力添えをお願いしたいと思います。また別の意見として、児島駅から児島公園に向かつての車も通らない道路となっています。道路としてではなく、公園の一部として変更して頂いた上で、市の管轄として低料金で使わせてもらえるよう作り直して貰う方法も一考として取り上げてもらえればありがたいです。○その他なし○現状の活動をしていきたいと思っています。集団活動なので、皆で協力し合い多方面の活動も増やしていけたらと思っています。○少子高齢化がどんどん進んでいます。元気なお年寄りも多いのですが、市民活動を行うに当たり(活動の種類にもよりますが)、やはり若い力が欲しいですね。ボランティアで頑張っている人も少なくないと思われませんが、頑張っている人が更に頑張っていて個人負担が大きいです。ボランティア精神云々、難しいですね。○公共の施設(公民館等)を無料で借りれたり、助成金を出して預ける事は活動を運営する上で本当に心強く思っています。これらの現状を保ちつつ多くの人々にこれらの活動を知ってもらう事が出来れば尚一層の発展になって行くと思います。○私のように独りボランティア(勝手ボランティア)を想定していない設問なので回答に困りました。街を美しくする事は1人でも出来ます。その”1人”が倉敷に100人いたらいいのにと思います。100人の人と話してみたいです。100人が団体になれば、お世話になれます。○・情報公開の徹底、・地域主権、・直接民主主義、・長期的ビジョンに基づく基本計画、・政策提言、・行政への参画、・議員のボランティア化、・内部告発及び保護条例、・利権構造の解体○子どもの為といった活動を行う団体が多く出てきていると感じるが、個人の名誉や売名の為に行われているものもあるように感じている。あまりにも多くあると問題も発生しかねない。精査する必要もあるように思う。子ども会を名のった第3者が自分勝手な行動を行い、企業に資金の提供を持てているものもあり、今後これらの事も含んで行なって行く必要があると思っている。○倉敷音楽祭での市民活動の場(発表の場)が予算削減でなくなる等、活動の場が減っています。障がい者だけの活動の場ではなく、全市民が気軽に参加できる場を設けてほしい。そうすれば、より大きな情報交換、活動が認識されるのでは?ホームページを作りたくても、その労力と時間がないのが現実です。○市民活動団体、NPOの皆さん、行政の方と何度も「顔合せ」をする事。が大切です○行政との意思疎通が密にとれていない為、行事が重なり合って、互いに参画できない状態があったので、情報の共有を含めてのコミュニケーションをとって頂きたいと感じています。○協働してもらいたい。現場に足を運んでもらい、一緒に活動して意見をもらいたい。アンケートを集計するだけでなく、必ず手を打っても会いたい。返辞をお願いします。○もっと情報が公開できる場があればいいなと思います。○ボランティア連合体も存在する実情も理解して欲しい。○「ライフサポート倉敷」で、印刷などできるようになり、大変助かっております。ありがとうございます。行政に頼るのは、好ましいことではないと思いますが、これからもサポートをよろしくお願いします。○研修会の案内が情報誌による会員あてのため非会員まで情報が届かない。広く会員以外にも広報したいが方法が無い。○倉敷市の場合広報課に研修会の案内を掲載してほしいと申し込んだが、断られた。他の市・津山市・笠岡市では広報誌掲載から、障害福祉課員の協力を得て広範囲に案内がきたが倉敷市は非協力である。(個人情報不明のため会としては案内ができない)○広報誌掲載等による協力をお願いしたい。○我々は国の福祉施策として自立支援を委託された団体のためその活動に対しては全面的に協力することが義務とされているとの国の指針の文書が届いている。行政の協力がほしい。○個人の時間が余っている方がたへ、何かの活動に参加できるような啓蒙をして、市民参加型のボランティアにしてほしいと思います。○市民活動グループとの交流の場を設け情報交換をし、知識を広め、互いの活動を知る事で、良いところは参考にして生かし、より活動内容が充実していく様に努めたい。○具体的な想い、ニーズを抱えている人の発掘○一人ひとりが相手を思いやる気持ちで、出来る人が出来る時に出来る事をする。私達は少数のグループですが、いつもこのような事を心掛けてボランティア活動をしています。○市民活動において、財源確保が大きな課題となっている。助成金の充実や、地元企業への団体紹介などが必要と思う。○ボランティア活動をしだして3年目ですのでマイペースです。市民活動するのに重要な事もあるので、しょうがよく分かっていないと思います。すみません。○情報の発信、○講座やイベントの会場確保○1. ボランティア活動保険は重要である。私達が活動を始める際、まず最初にした事は、この保険に加入する事だった。人様から大事な子供達をあずかる

からには、事故はあってはならない事だが、万が一に備えて入っておくべきだと皆で考えて加入した。○難病に対する社会の偏見が余り緩和されていない。当事者(難病患者・家族)が自然体で日常生活を過ごせる様な社会環境になる事を望む。

市民活動団体の現状把握と 必要なサポート検討のための アンケート調査報告書

市民活動★パワーアップ研究会編

主催：くらしきパートナーシップ推進ひろば

連絡先 info@kurashiki-hiroba.sakura.ne.jp

担当者 090-3616-8321 (佐藤)

平成 21 年度 倉敷市 市民企画提案事業

2010 年 (H22 年) 3 月発行

・くらしきパートナーシップ推進ひろば・

市民活動を応援する草の根の中間支援組織。2004 年から活動をはじめ、現在は組織・人材の育成と政策提言に重点を置いて活動。

2009 年度は市民活動★パワーアップ研究会、1 日サポセン★体験 PJ などに取り組む。

市民活動★パワーアップ研究会での成果を取りまとめた報告書【決定版】を 6 月に発行予定。